

M. Hanzawa

部報

昭和四十三年度

北海道大学馬術部



Matsunaga



一言

そう 只一言

その日 その瞬間とき

僕に何かを云って

欲しかった。

追い求めた幻と

眩しい夕暮れの中に

項垂うなだれて

お前を引いていた

あの日に。

僕は。

虚らな響きを

どこかに

聞いていた。

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎
作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかゝる
しろがねのえんさん ゆめほうほうたり
たからかにいまそいななけわれ
らしゅんめのほまれあり
ほまれありほくだいほくだいお
おわがほこうわれらしゅんめの
ほまれあり

北大馬術部讃歌

一、
春来たれば、大地光る
銀の遠山、夢茫茫たり
高らかに 今ぞ嘶け
われら駿馬のほまれあり

二、
時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け
われら駿馬のほまれあり

三、
雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
北大、北大、おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

目

次

巻頭言	部長 半沢道郎	3
主将として考えること	主将 本田 徹	5
監督の近況		8
戦績及び行事報告		9
役員紹介		12
会計報告	会計 今井雅子	13
マネージャーより	主務 小野政則	14
各馬調教報告(各馬責任者)		15
北 尊 号	四年目 本田 徹	15
北 翔 号	四年目 篠崎 正樹	17
北 驛 号	昭和四十四年卒 田中 力	18
北 秀 号	四年目 小野政則	19
北 晨 号	三年目 中寺清久	20
北 颯 号	四年目 橋口 庸	21
北 璽 号	三年目 松井 亮	22
北 雄 号	四年目 加藤公敏	22
北 力 号	自己紹介	25
卒業生の行方		26

函館の馬術部	昭和四十四年卒	山本	進	27
馬の獣医的常識について	昭和四十四年卒	田中	力	28
先輩寄稿				
"思い出すままに"	昭和九年卒	東園	基文	32
随想"初より昔今"	同好会幹事	佐台	義弘	34
おたより				
昭四十一卒	高野	文彰		35
部員プロフィール "他人の顔"				
迷作展				
誘導馬	三年目	堤	秀世	39
"そのように杓かな夜には"	三年目	松永	由可里	42
貨車積	二年目	梶村	哲世	43
つれづれの記	二年目	寺島	亨	44
考える馬術	三年目	堤	秀世	46
思うままに	二年目	榎井	明	47
想		或	人	48
住所録				51

巻頭言

部長 半沢道郎

暮に不覚にも風邪をひき、十数年欠かさなかつた初乗りができなかつた上に、乗馬で年始に来て呉れた部員諸君に挨拶もしないで誠に残念な新年を迎えた。その正月も過ぎて早くも三月、毎年部報の出ることを承知し乍ら原稿を催促される始末、卒先垂範をする立場の顧問教官として甚だ申訳の無いことである。

辞めた部員が比較的多く、現在部員の数が少ない処に、数名の卒業生と山形県庁に就職される山村君を送ることに成り寂寥の感が深い、近い中に多数の新入部員を迎えることとなり、活発な活動が始まることを期待している。

種々問題の多い最近の学園の中で兎も角、馬を飼育しながら馬術部の活動が続けられていることは、部員諸君の努力は勿論であるが、先輩はじめ多くの関係の方々の後援の賜であつて、各位のご厚意に対し衷心感謝する次第である。

大学の改革に伴つて、昔の学生々活とは違つた新しい学生々活が営まれる様になると思われるが、大学の課外活動である運動部のあり方も新しい時代に則したものに進展しなければならぬと思う。古いものや現在の体制は何でも悪いものとして、それらを打破しなければ納まらない、一部学生がやっている計画のない反抗ではなく、古い伝統を護り、その基礎の上に新しいものを創造する建設的な発展が望まれる。先輩から受継いだ伝統の精神も運用の方法によっては歪められたり、忘れられたりすると考えられるが、四十年の歴史は誠に貴重な教訓であることは間違いない事実であるから、部員諸君、殊に新しい部員諸君は北大の馬術部が如何にして誕生し、どのようにして困難に打克つて現在に至つてゐるか、何処を伸ばし、何処を改善すればよいかを、先輩に聴くなり、部報や十年誌(史三十年誌等を通して知り、研究し、熟知してから慎重に改革すべきであつて軽卒に実行することは慎むべきである。

例えば対外的な問題として七大学の総合体育大会の馬術競技(旧帝大戦)の開催について、至極単純にあれば貸与馬競技だから止めてしまふということは破壊的であつて創造的では無く、大学生の採る態度ではないと思ふ。自馬方式でやるのが理想であるならばその実現の方法を研究して、実現するように努力するのが青年の採るべき途であると思ふ。その理想の実現が困難であるならば、貸与馬競技の意義をよく考え、中途半端を妥協でなく意味のある競技会を実施するように考えるべきである。

当番校である以上、徒らに他校の意見に賛同して責任を果さない様なことはすべきでない。当番校でない時でも都合がつかなければ欠場すればよいので、他校を誘つて歴史のある大会の廃止を企てるのは建設でなく破壊である。

また最近の問題で寝糞のことがあるが、自馬繋養当初から既肥と交換なら、近郊の農家は無料で提供して呉れるので、金を出して寝糞を購入する必要は無いのであった。然し北大の馬が生産する既肥は北大の農場の肥料となった方が良いで（会計の事務的問題は別として）交換はしないで来たのである。糞の入手が困難になり、部と農場の関係が昔と変わったからといっても、既肥の学外へ搬出することは萬策の尽きた時点で於て採るべき手段であって、何とかして安価に入手する方法を考え、努力することが大学から受けている特別な恩典に対する僅かなお返しであると考ええる。このような小さな問題であっても慎重に取り組み、過去を顧み、将来を慮って問題を解決し行動することが課外活動の一つの意義であると信ずる。厩舎と馬場の移転問題も馬術部の本年の最大の課題であって、これについても創造的な解決を部員諸君と共に努力したいと念願している。

団体に馬術競技を廃止する案が出されたり、公営ギャンブルだとして競馬が俎上^上に載せられたり、馬や馬術に関係のある国家的の問題も学生馬術のあり方に少なからず影響を及ぼすことと思うが、青少年の身心の鍛練に最適であるこのスポーツを若い諸君の手で護り、馬を愛し馬術を好む人達と手を取り合せて、馬術の普及発展の推進者となって欲しい。

新入部員諸君は何の為に人の寝ている早朝から、どなられ乍ら練習し、苦しい作業に追い廻されて余り乗る時間も無く、勉強の時間も少なくなり、馬糞だ寝糞だ、遠征だと苦労をして部員になっていなければならぬか、一体どんな意味がこの課外活動にあるのかと疑問を起すことと思うが、困難を通して進歩があり、自己修養ができるのであるから、乗馬の醍醐味も覚えないうちに辞める様なことをしないで、体験を通じてよく考え、苦悩と戦ってからゆっくり結論を出して欲しい。また諸君の中に意見の対立がある場合には調和を計って、馬術部々員としての学生々活に積極的な意味と目的を見出して、団結して明るく楽しい学生生活を送って、馬術部の存在を意義あるものとして頂きたい。

主将として考えること

本田 徹

どうせ雑駁なものにしかならぬでしょうが、主将として一応は持っている抱負のようなものを綴ってみました。

一口に馬術部活動の目的いかに云っても、それは個々の部員にとつて、そして馬術部という一つの組織・有機体にとつて、という二つの側面から考えることが可能であろう。個々の部員にとつて部活動に参加する目的はいろいろあるだろうが、それらはすべて「馬術部員たり続けることが、何らかの意味で自分自身のためになるのだ」という単純な、しかし根本的でもある信念に発していることは疑いえないし、また実際そうでなければならぬ。つまり馬とたわむれるのが好きで部にいる人間も、試合に勝つことをめざして部活動を続ける部員も、部にいたることが自分のためにもなるのだという信念だけは共有しているわけだ。思うにこれは実に大事なことである。というのは、すべての部員が自分のためになるから部活動に参加しているのだとぼろぼろに云えるようではなければ、そのクラブが一つの組織として発展することなどとも望めないからである。だから僕は部員一人一人が、まず部に存在することに對して個人的な意味づけをやってほしいと思う。それさえきちんとやれば、馬術部という組織のためにつくすことが楽しくなるはずだ。

さてそれでは「馬術部」という組織自体の目的あるいは発展とは何か。それは自馬制を整え、試合で優秀な成績を残すことに他

ならない。しかし、試合に勝つという「部」の目的は、決して個々の部員にとつての目的が多岐にわたることと抵触はしない。究極において自分のためプラスになるのだと考えた上で、それぞれの目的をひきさげて部に参加する者はみなかけがえのない部員ではないか。

僕は限られた条件のもとで部活動を行なっている。学生である以上、時間的、経済的を制約はまぬがれがたい。学問に志す人間として同時に、馬にも乗るということは、どう考えても自己矛盾であろう。愚痴を数え出したらきりがない。大事なことはたゞ一つ、条件がどれほど限られていようと、部に課せられた目標は手加減や容赦を絶対に許さない、厳しい性質のものだということである。つまり、馬術部の発展とは、あらわれとしては、試合に勝つこと、もっと基礎的には、自馬の飼育管理、調教を立派にしとげること以外にはないのだということである。

学生馬術家として僕らに許されている時間はわずかの四年間である。その上、四年間とは云っても、馬の調教、試合出場ということに話を限ってしまうなら、ぼくらの命は一年足らずのものである。とすれば、一年ごとに、調教の不連続、方針の変更を繰り返していたのでは、部の発展など到底望むべくもないだろうことは自明の理になってくる。調教者の交替にもかかわらず調教の成果はどんどん積みあげられてゆかねばならない。後任者の努力は前人者の払った努力と基本的に同じ方向へ回ってなされなければならぬ。調教方針、練習方法の体系化、一貫性が求められるゆえんである。ぼくらはこのような学生馬術部特有の要請を考えた上で、自然馬術いわゆるイタリー方式の原則に準拠することにし

た。その原則は次のように教えている。

馬が騎手の命に服してことをなすに当り、運動の自由、体勢の自由を最大限に尊重してやること。飛越にあたり頭頸を充分に使わしめること。背を隆起し、頸を伸展低下し、はみをやわらかく前下方へひきながら飛越馬は行進すべきであること。従って騎手はいかなる場合にも、馬口の動き、背腰の運動を害さないこと。

馴致、街乗を従順性とのつながりにおいて最重要視すること。更にこれらすべてを総括して云えば、馬のあらゆる「自然性」——つまり天賦の飛越能力、平衡感覚、元来野山を走りまわる動物であった馬の前進氣勢・潑刺さなど——に深い愛と洞察を加えること。

僕らはこれらの教えが真理を穿っていることを信じる。もちろん、自然馬術が飛越馬・野外馬調教の理論である以上、総台馬の調教という困難な問題にとりくんでいる僕らには不足している面があるかもしれない。また鎌田先輩の云われるように、自然馬術云々以前に、僕等に騎手としての基本的な騎坐・脚・拳が致命的なほど欠けていることを痛烈に反省しなければならぬ。けれども僕等の技術の未熟さがどれほど僕等自身のあゆみを困難なものにしようと、目標から僕らを隔てていようと、そこから生まれてくる不安や悩みを、原則や理想そのものへの懷疑ということとすりかえてしまっただけなのだ。それでは少しも問題を解決したことにならない。

自分自身に対して厳格になること、馬術上の原則について各人がよく研究し認識を深めること、そして日々真剣な気持ちで馬に乗ってゆくこと、これらのことをたゆまず実行してゆけば、部

がよくなっていかなければ決してないのだ。

最後に部馬の状態について。

北環、北翔については周知のとおり。彼女たちの年令、健康状態を考えると、今後あまり多くのことを望むのは酷である。またいつまでも彼女たちにおんぶしている状態では情ない。いたわりながら乗ってゆきたい。

北農。去年の夏、左後肢飛節内腫を起して以来、調教がストップしている。とにかく足をなおさないことには話にならない。三月末まで常歩道遙騎乗を続け、内腫部が固まるのを待つ。

北尊。この馬も左右両後肢の飛節に軽度ながら故障をもっているから、管理に充分気を配らねばならない。飛越技能についてはすぐれたものをもっている。苦手の伸縮運動、右手前運動を克服して、早く北翔・北環の域にもってゆきたい。

北誓。田中兄の努力により、この半年のうちにみちがえるほど良好な飛越馬になった。その限りで、現在部においても優秀な練習馬であると云える。ただ十四才という年のせいもあってか、頭ががん固であること、そして体や口がもともと固かったことなど問題はあつた。

次に新馬であるが、(さしあたり加藤先輩が調教にあたられている北武号は考慮外におくとして)残念ながら北環以外の三頭、秀・雄・力の調教が頓挫しているのが現状である。それもすべて足の故障のためなのであるから可哀しい。北雄・北力の二頭は入厩当時から故障をもっていたのだからやむなしとしても、北秀については装蹄上の問題をも含めて、ぼくらの未熟な馬体管理がよびよせた災いだたと云ってよい。調教責任者が一年のうちに三

人も変ったといふことは、この馬にとって悲劇だった。北秀は左前肢の管に相当大きな骨瘤を作っている。これ以上広がれば臆と触れる恐れがあるから、固まるまで常歩騎乗にとどめる。素質もありまだ若いのだから、この馬の扱いについて、ぼくらは今以上に慎重になる必要がある。

北稟。馬体は、鞍傷の心配が多少あるほか、健康である。この馬のためには、新しい鞍が必要である。調教はいまのところ問題ないが、性質のむずかしい馬だけにひとすじなわけはいかないと思う。

北雄。競走馬の時代、左後肢球節部を物にぶつけたとかいうことで、それがいまだによくならない。ちょっと運動量を増すとはれて熱をもってくる。時間がかかってもいいから、どうしてもこの故障だけはなおしたい。この馬の秘めている可能性は量りしれないのだ。

北力。左前肢の故障（緊革帯炎、指骨瘤）が昨年来、一向良くなった様子が見えない。先日、獣医の小池先生に診ていただいたところ、諦めた方がいいのではないかといったお話であった。馬には酷であるうが、今後一、二ヶ月、普通の馬に近い運動量を毎日課してみる。それで故障が悪化の一方を辿る場合、離厩ということを考えねばならぬ。

こうして一頭一頭を眺めてみると、故障馬の多いことをあらためて痛感させられる。もちろんぼくらの手に入るような馬は、過去においてすでに故障を負ってしまっているものが殆んどであろう。けれどそれはそれとしても、ぼくらはなお馬体管理について無知である。もっと正確には、およそ馬というものについて無知

である。今年の正月、馬事公苑を訪れた春田・田中兄にむかって千葉幹夫先輩は「自然」ということばの特にShiの部分に強勢をおいて、こう云われたそうである。

「君たちは馬の自然というものを常日頃よく観察しておくべきである」

・ぼくはこの言葉を自分をも含めて、すべての部員によく噛みしめてもらいたいと思う。試合で立派な成績をあげることと、馬体の健康管理をゆかりなく行なうこととは、要するに楯の両面なこと、これをよく知るといふこと、その自然性を観察しておくということ、これこそが楯の核心をなしているのだということをはやくはたえ銘記しておこう。

監督の近況

部報原稿を依頼しました所、札幌オリンピックを間近に控え、市の土木部長としての立場上、連日、多忙との事でしたので無理にお願いも出来かねまして、その旨をこの紙面にて御関係の皆様にお知らせ致しまして、監督の文に替えさせていただきます。



戦績及び行事報告

5月 7日～14日 2年目対象強化練習
 6月 2日 札幌地区自馬大会(於札幌競馬場)

○中障碍B

- 1位 北大加藤(北璽)
- 2位 札幌夕山崎(竜背)
- 3位 札幌村上
- 4位 北大春田(北翔)

○小障碍飛越競技

- 1位 北大篠崎(北翔)
- 2位 北大小野(北璽)
- 3位 北大本田(北彗)
- 3位 ~~北乗~~^北半沢(北翔)
- 北大橋口(北驥)

○中障碍A

北大田中(北彗)

6月 9日 遠乗会
 6月26日～29日 七帝戦選手対象強化練習
 7月 3日～ 4日 第7回七帝戦(於名古屋大学)

	名大	東大	北大
名大		○	○
東大	×		○
北大	×	×	

優勝 名大

5位 北大

7月 6日～ 7日 北海道自馬大会(於札幌競馬場)

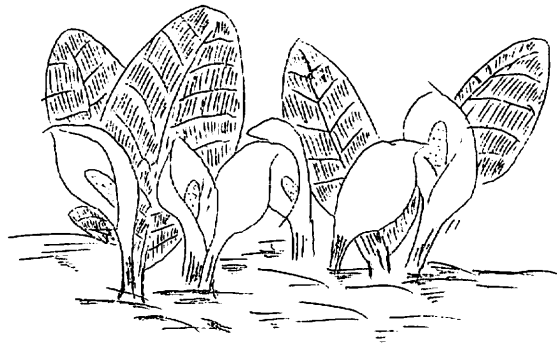
- 7月16日～21日 北日本向け強化練習
- 7月下旬 北雄(旧名ヤマズミオー)入厩
- 8月1日～4日 第4回北日本馬術大会(於 仙台長町馬場)
- 一般標準中障礙飛越競技
 - 1位 北大 春田(北璽)
 - 2位 札乗ク 山崎(竜青)
 - 3位 帯畜大 稲 尚(勇勝)
 - 9位 北大 春田(北翔)
 - 一般バルクール・ド・シヤス
 - 1位 福島馬連 佐藤(サイクロン)
 - 2位 帯畜大 福 山(勇勝)
 - 3位 北大 小野(北璽)
 - 8位 北大 春田(北翔)
 - 一般大障礙飛越競馬
 - 北大 春田(北璽)
- 8月18日 第9回札幌市民体育大会(於北大)
- 中障礙飛越競技(標準)
 - 1位 札乗ク 山 本(洋孝)
 - 2位 札乗ク 山 崎(竜青)
 - 3位 北大 春田(北翔)
 - 4位 北大 田 中(北擘)
 - バルクール・ド・シヤス
 - 1位 北大 春田(北翔)
 - 2位 札乗ク 田 中(キングフレーム)
 - 3位 北大 田 中(北擘)
 - 婦人障礙飛越競技
 - 北大 佐藤(北驥)
 - 小障礙飛越回数競技
 - 1位 北大 本 田(北擘)
 - 2位 北大 篠 崎(北翔)

- 8月25日 北海道馬術大会兼国体予選(於旭川)
- 一般自馬複合馬術競技
 - 北大春田, 田中, 本田
 - 一般自馬六段飛越競技
 - 北大春田
 - 婦人障礙飛越競技
 - 北大佐藤
 - 一般中障礙飛越競技
 - 北大田中, 春田, 本田
 - 壮年障礙飛越競技
 - 北大半沢, 岡田
- 8月30日 北力(旧名チカラ)入厩
- 9月21日 役員交代
- 9月22日 開道100年記念馬術大会(於北大)
- 小障礙
 - 1位 北大長谷川(北璽)
 - 関門飛越
 - 1位 北大寺島(北驥)
 - 2位 北大梶村(北驥)
 - 4位 北大榊井(北璽)
- 10月2日 第23回国民体育大会(於福井市)
- 北大春田(北翔)
- 11月17日・18日 第11回全日本学生自馬大会
- 北大小野(北璽)
- 12月18日～23日 2年目対象強化練習
- 1月2日 初乗り
- 1月25日 新年会
- 3月1日 追コン

役員

(学年は四十四年四月現在)

後援会	体育会委員	作業主任	馬具係	備品係	記録係	飼育係	会計係	主務	副将	主将
梶井	梶村哲	加藤公敏	堤秀世	松井亮	篠崎正樹	橋口庸	今井雅子	小野政則	橋口庸	本田徹
(教・二)	(教・二)	(理化三)	(教・二)	(医進二)	(医・二)	(医・二)	(農化四)	(農林四)	(医・二)	(医・二)



4 3 年 度 会 計 報 告

月	収 入					支 出								
	入部金費	アルバイト	援 助	その他	計	飼 育	備 品	馬 具	鉄	遠 征	マネジ + ー	記 録	特 別	計
4	47,400	0	11,600	10,000	69,000	5,758	3,414	145	3,150	0	280	210	19,126	112,205
5	32,200	2,520	0	22,000	57,720	2,513	3,925	230	0	0	1,886	570	13,415	45,156
6	23,500	10,420	26,000	12,736	72,656	0	3,490	1,770	0	7,456	972	500	6,655	87,947
7	26,900	12,000	0	27,401	66,301	1,195	4,040	660	4,050	7,593	2,254	260	4,020	128,859
8	11,500	30,000	44,000	2,700	882,000	1,064	9,550	0	0	18,775	19,183	0	49,800	1,079,488
9	26,000	12,000	0	14,000	52,000	2,000	8,118	0	0	6,060	594	0	900	1,767,200
10	11,000	1,771,600	0	14,000	2,011,600	1,184	8,070	39,165	3,750	0	4,640	212	0	1,014,270
11	11,000	1,757,200	30,000	35,000	2,517,200	250	4,970	240	0	34,784	0	0	500	4,074,440
12	19,000	0	0	30,500	49,500	4,200	10,040	0	0	200	2,500	0	5,518	2,245,800
1	14,000	0	0	0	14,000	2,852	450	9,720	0	0	0	0	1,744	4,043,400
2	5,500	5,000	0	1,000	11,500	8,435	250	750	4,430	0	4,120	0	7,000	6,485,500
3	0	0	0	41,008	41,008	5,440	0	0	0	0	0	0	7,500	6,190,000
2月迄の計	228,000	4,248,200	111,600	169,337	9,337,570	14,974	56,317	5,268	15,380	21,039	36,429	1,752	10,867	7,697,050
計	228,000	4,248,200	111,600	210,345	9,747,650	20,414	56,317	5,268	15,380	21,039	36,429	1,752	11,617	8,316,050

マネージャーより

主務 小野 政 則

現在、部にとって色々な問題があるがその中の一つに馬場及び厩舎の移転の問題がある。現在の厩舎のある場所は、古い建物全部こわし芝草を植えてローンにする計画があり、第一農場の事務所も既にポプラ並木の西側に移り馬場のある所は工学部の建物が建つ事になっていきます。馬場のすぐ側にも最近工学部の建物が伸びて来ております。しかるに馬場厩舎等の移転先や何時から工事が始まるかもまだはっきり決っておりません。今、候補に上がっている移転先は、第二農場の畜舎のあった所です。昨年の秋、新しい畜舎が完成して現在そこは使っておらず記念物として保存する予定なので、そこを馬術部で管理し、付属施設を借りて馬場や厩舎をそこに移転できるように、大学本部や農学部長等関係者と半沢先生に骨折っていただいで交渉している所です。今年中にははっきり決まると思います。

次に飼料の問題ですが、学生部より五頭分の飼料が来る事になっておりますが、実際は最初の年にかかった六十万円で打ち切られていて毎年の値上がりしている事は、考慮されてないので、それでは五頭も飼養する事はできないので、金額で幾らというのではなく、五頭分の飼料として支給してもらおうよう話し合っております。又一度には行かないけれども五頭は学校で認めているのだから、五頭分の鉄代も学生部で払ってもらい、徐々に頭数もふやしてもらおうような方向で、今後学生部と話し合って行きたいと思

っております。

アルバイトについて云うと、今年も競馬場のアルバイトを予定しています。例年の事ながら競馬場のバイトは講義をサボルことを強制することになり、部員皆、文句も云わず、少し出たよりだけど、一生懸命やってくれますが、これ以上増やす事は無理なので、学生である事を忘れない程度にジャンジャンやる予定ですから、部員諸兄弟の御協力をお願いします。又少しでも負担を少なくするため、夏の間中乾草づくりをやるので、ただの作業と思わず冬の乾草をつくるつもりで頑張ってください。

最後にりましたが、後援会の先輩達も二百数十名もおられ、会費が全部集まり、諸雑費を差引いても二〇万円ぐらい集まると思いますが、実際には一部の方々に納めていただいているだけです。今後の北大馬術部の勝利のためにも又後援会活動の正常な発展のためにも部員を帰省の折、また札幌などでは暇をみつけて伺わせますので、その節は宜しくお願いします。

未熟なものばかりですので、気がつかれた事がありましたらどしどし忠告をしてやって下さい。お願いします。

各馬調教報告

各馬責任者

北彗号	本田	徹 (医・二)
北翔号	篠崎	正樹 (医・二)
北驛号	太田	清澄 (農農三)
北凜号	橋口	庸 (医・二)
北秀号	小野	政則 (農林四)
北雄号	加藤	公敏 (理化四)
北方号	加藤	公敏 (理化四)
北嬰号	松井	亮 (医進二)
北晨号	中寺	清久 (工機三)

北 彗 号

本 田 徹

まず馬体の健康状態について。

概して良好だと思えます。既往症としては、鞍傷、左後肢飛節内腫、左右前肢の管骨瘤とさまざまあるわけですが、現在のところすべておさまっています。心・肺・消化器などは相当丈夫なようです。そこで、この馬の健康管理では、四肢の故障を防ぐ

ことに最大の注意を払わなければならぬと考えています。次に調教について。筋道だてて書くことに困難を感じますので、今は覚え書風に記しておくにとどめます。

一、飛越に関する限り、北彗はすぐれた技巧と能力を持っていること疑いありません。特に「沈静」という飛越馬が具備すべきもっとも大切な条件を、この馬はほとんど完全に満たしているようです。飛越に際し、この馬が沈静を失うとすれば、それはすべて騎手の責任です。「沈静して飛ぶ」という、この馬の持つ大きな美点を損わないよう、騎手である僕こそが一日も早く、妨害をせずに乗れるようになることと、適確な推進法を身につけることを心がけねばならないと痛感します。

二、これも馬にばかり責任をおっかぶせてはいられない問題なのですが、頭礎の安定という点で、やはりまだ北翔に比べてワンステップの差を感じます。頭頸の伸展低下という原則的な態勢が崩れやすいのは、例えばこんなときです。

① 速歩から常歩への歩度減却時

② 駢歩発進時

③ 回転時 (これは騎手の脚の使えなさに原因があります)

一、伸長速歩がまだ思うにまかせない。いままではどちらかという伸長速歩をなおざりにしてきたくらいがあります。けれど先日山村先盤からも、前進氣勢の涵養のために伸長速歩をもっと行うべきだ、とのアドバイスを受けました。今後は一日の作業のなかに伸長速歩を積極的に盛りこんでゆきます。

二、これは他の馬にも大なり小なり云えることなのですが、ことに北彗の場合、エンジンがかかるのが遅いということを感じま

す。扶助に対する軽快性、従順性は一日の作業のはじめと終わり
とで相当の開きがあるのです。このような性質に鑑み、以下の二
点を注意したいと思います。

① きちっとした準備運動を行ないうるかどうか、この馬の
その日の本運動の成否、さらには調教の成否にかかわってくる
ということ。

② 騎手の騎坐・脚・拳がまだ未熟である以上、運動を丁寧
に継続してゆくうちに、少しずつ軽快性、従順性を増してくると
いう、この馬の顕著な性質をよくのみにこんで、これを利用しなけ
ばならないということ。

一、 まだまだ馴致が不足している。北替には非常に鈍感なと
ころがある反面、他の馬が驚ろかないようなものを、むやみにおそ
ろしがるのです。テントや作業場のような、彼にとって異様であ
るに違いない場所、環境に人が数多く集っている光景を、彼はと
りわけおそれるようです。

一、 最後になってしまいました。各種の歩度（特に駈歩）で
図形を正確に描くこと、これが人馬ともに苦手です。これは北替
が優秀な総合馬になるためには、どうしても越えなければならな
い難関です。ただ、それがために馬に無用の苦痛を与えることは
絶対避けなければなりません。人にも馬にも無理でない範囲で、
この種の運動をも手がけてゆきたいと考えます。やはり現在の僕
にとっては、北替号を向けられた障碍はどんな時にも喜んで飛越
する馬にすることが最大の課題です。

この三年間、僕を馬術部の活動に執着させてきたモメントは、

もとより一つきりであつたはずではなく、その時期、その時期で
実にさまざまのものが働いていたであらうことは疑いありません。
けれど北替号に対して懐き続けてきたある感情（それが、はじめ
はこの馬で優勝杯をかっさらってやろうという打算づくめの感情
にすぎず、最近になって漸く、愛としか呼びぶよりのない感情まで
を包摂するようになったという、時間的変化をたどっているにせ
よ）は、僕を馬術部員たらしめておくことに、一貫して、かつ強
力にあずかってきました。自分の技術に決定的な失望を嘗めさせ
られたことは、これまでに何度もありましたし、これからもまぬ
がれるはずはありません。けれど北替を自分が愛しているという
ことは、（彼の方はどうかのかしらん？）、とにかく一つの「刀」
であるに違いないのだ、とこの日頃つくづく感じます。勿論その
ために正式な努力をおろそかにするつもりはありません。この馬
の能力を全部引き出せたら・・・という見果てぬ夢の実現のため
に、僕もまた自分自身のすべての能力を傾けてみます。

余り大きなことばかり云いつのっているかと笑われそうなのでも
うやめます。

要領の悪い文章を最後までお読み下さったことを感謝します。

北翔号について

篠崎 正樹

我部唯一のプリンセス（人間共も含めて）北翔号も当年として十五才。彼女をチビ助などと、いささか俗っぽい名前と呼ぶのも裏を返せば下賤の輩の劣等感の現れと云いたい所ですが、このプリンセスいささかお年をめしたせいも、世俗のあかに染まってきたように北彗などの田舎者のおじさん相手にきまってる飼付前に一騒動やらかしている昨今であります。さて小生が北翔のサブになったのが去年の四月、正式に春田兄より引継いだのが十月です。からほぼ一年近い付合をしている事になるわけですが、実際の所、ますます彼女がわからなくなり、少々頭をひねっている状態です。さて、現在の北翔の状況と、それに関連して今後の方針を若干述べてみたいと思います。まず、第一に右後肢の飛節内腫の回復を目指す事です。重症の内腫の場合は、回復を望むべくもないのですが、北翔の場合は、内腫と云えるのかどうか、運動の後に、飛節に熱をもつ程度で跛行には到らず、去年の十二月より今春までには、なんとか固まるものと運動は常歩のみと控えてきました。幸い経過は良好な様で雪解けと共に徐々に運動量をふやしてゆけるものと思います。なお足の故障は、何も北翔に限った事でなく北秀・北農など多々見られる事から装蹄に問題があるものと思われまます。次に挙げるのは体力の事です。六月の事でしたか、速歩の最中に喘息様の症状を呈す。又汗をすくく様になるなどから病院で診てもらったのですがわからず、たまたま競馬場に来てい

た中央競馬会の柴田さんに診断して貰った所、肺と心臓が弱っているとの事。いまずぐどうなると云う急性のものではないとの事でしたが、とにかく体力が衰えている事は事実の様でした。この為八月の北日本の大会では、総合競技の出場はあきらめねばなりませんでした。まあこの時は、貨車の輸送は難なく済んだのですが、十月の春田兄の活躍でせっかく得た福井国体の遠征せとうとう輸送性の肺炎を起こしてしまいました。やはり遠征は、北翔にとって相当の負担であった様です。今後の見通しとしては、最早総合競技などは、あきらめるとしても、無理せずに上手に体力の回復をはかってゆくなら（下級生の練習などいろいろ考えねばなりません）十五才というのは、年令的な限界には少々早すぎるし、まだまだ充分に活躍できる余地は残っているものと思います。最後に以上述べた事からおわかりの様情ない事です。が現在の北翔は、調教以前の問題で低迷している状況です。馬の飼育管理なくして調教の事など論ぜられぬ事を痛感している次第であります。さて今後の事ですが一括してどうするかと云えば徐々にやるより他に仕方がないと思います。この冬充分に北翔を乗りこなしてない事（従って馬が少々人間をなめている徴候がみられる）の不安はありますが、これも仕方のない事。徐々に運動してゆく過程で一日も早く北翔を知り尽くして以前の状態に近づけるべく努力しなければと思っています。

北 驥 号

田 中 力

昨年度の部報で寺崎君の書いたその後についてお知らせします。昨年一月頃から前肢の跛行がなかなかおらず、二月に入ってから三月いっぱいまで馬体休養させて、四月に入っても跛行がおられないようだったから離厩させようとして覚悟をきめていました。四月初めに当時の責任者の寺崎君が乗ったところ不思議にも跛行は完全になおっていました。それで徐々に運動量を多くして一ヶ月ぐらいで完全に復調したようです。私は北擘に乗るのに精いっぱい、北驥については良く覚えていませんが、ときどき乗ったようです。騎乗日誌によると、飛越がものすごい。障礙を通過するとき頭をひっこめて着地するとき他の馬なら頭を上げて前肢へのショックをやわらげるところが、彼氏は頭から突っ込む。未熟なる乗手は不幸にもあおられてなんともみられない格好だったらしい。

その彼寺崎君が北秀を講教することになり北驥はチーフのいな単なる練習馬になったと思う。二、三の貸与馬や下級生の試合出場などにて他の北大の馬の防波堤になったようであった。

おかげで旭川の道大では北驥・北翔・北擘が出場し、全馬ともなんとか格好をつけることが出来た。十一月は斉藤君が乗ったが彼も色々事情があっただけおもうようには出来なかつた。

道大が終って帰札してしばらくすると北擘がびっくりする程調子を上げて来た。それで北擘は本田君にひきついで。しかしその

すぐまえに北擘の体に故障の出たことは反省している。

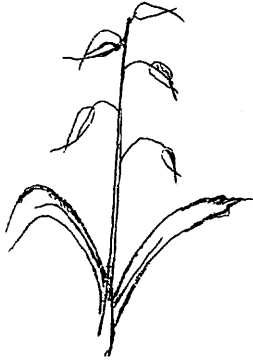
ともあれ九月二十二日に調教者会議で、北驥に乗ることに決った。まずはじめたことは口向きを直すこと。逆鞭を頭の上にかざして頭頸を下げさせ脚を使ったとき自然に頸をのばしハミに支点をとって歩くようにする。馴致もあまりゆかずほとんど馬場内で毎日二時間びっしり運動した。一ヶ月ぐらいでだいたいの八〇パーセントぐらい達成出来た。左右にも柔らかくなった。障害も六〇センチメートル以下ならたいいのものは素直に通過する。しかし相変わらず変則的な動作でした。しかし大分良くなったというので初心者馬術大会の小障礙に出ることになったのですが、満点でゴールするところがはからずも反抗にあい失権する前に棄権をして、再起を決めました。驥は以前にも言いましたようにその年ほとんどゴールしていませんので、失権になったときのが囲気を感じすぎるぐらい感じています。それでこのことをおそれてやめたのですが、やはり良かったと思います。

以下日誌を参照しながら述べますと、「十一月初旬。右輪乗が大分りまくなった。山形乗、半巻運動を続けることにする。前後にまだ固い。」「十一月二十三日。駈歩をやってみる。体が固い。弾力が足りない感じがする。前進氣勢は充分だが、昨日、一昨日運動を制限したせいとか突っかかり気味。一メートル二〇に挑戦。北大に入厩してから最高。一回目、前肢の蹄がさわった。二回目、三角点で拍車をつかった。手綱は小栗さんの指示でかなり強く緊張している。踏切が少し速く、乗手がおくれ気味になった。後肢をぶっつけた。一横木をしばらくつけてあるので支柱ごと倒れた。乗手の未熟がくやまれたが、コンタクトの大切さをはじめて知っ

たようだったのうれしかった。

北線に乗りはじめて二ヶ月。こんなに進歩が早いとは思って
みなかった。しかも練習に使いながら。馬体が丈夫だということ
は重要なことである。無事は名馬とは良くいったものだ。しかし
進歩を急ぎすぎたような感じがする。小栗さんの指示どおりやっ
ているのだが、あまりうまくゆきすぎて少し不安だ。

その後も乗っていますが、正月帰省から戻って乗って感じたの
は、馬体全体が固くて北線などと比べると、これが同じ「馬」か
と思うぐらいでした。先天的なものはやはり違うのかなどと考
えたりします。やはりサラブレッドは柔らかくて良いなあと思いま
す。しかし北線の真面目で一途なところを他の馬に見ならって欲
しいし、そういう馬に乗せてもらったことを幸福だと思えます。
卒業も間近に控えてもうそろそろ練習の参加もむずかしくなっ
て来ました。次に北線に乗る加藤君はきつとうまくやるでしょう。
最後にもう一言。馬体管理が講教の第一歩。



北 秀 号

小 野 政 則

「旅の空より」

毎日毎日、原稿の催促を聞きながら、今日は帰ってから書こう
と何度張り切ってアパートに帰って行った事か。その度に、川端
康成程の才能があったら良いのにといいながら、一行書いては止
め、又一行書いてはやめ、そして、夜な夜な勉学に励んだ事か。
日頃の勉強不足を嘆きつつ期末試験の済んだ時の酒のいづもに比
べてまづい事。

そうこうしている内に研修旅行に行く日が来た。札幌を離れ催
促される地獄の声から解放されたのも束の間、今度は良心の声に
責められ又しても今日こそはと思ひ鉛筆を持ち、原稿用紙と取組
む次第となった訳です。

何んでも良いから北秀について書けと云われても、前年度の部
報を見ていただければ、大方の事は分ると思えます。それに付け
加える事と云えば、デコが日高から帰って来て、一年半余りのそ
の間、デコに乗った者は俺で四人目で、その内の一人は卒論が忙
しいと云って部活動から遠ざかり、又一人は三度目の挑戦に敗れ
学校から去り、その他の者は自己嫌悪に落入り自ら部を去って行
った。それ故、北秀にはデコと云う愛称の他に、裏街道では不吉
な馬とか、生れが生れだから悪い星の下に生れた疫病神なんて噂
も立っている程です。

そう云う訳で、北環から不本意な乗る事になった訳ですが、

馬って接すれば色々今まで感じなかった可愛い癖を持っているもので、手入れしている時人の足を踏みにソツと足を出したり、人を見ると尻を人の方に持って行き、デコにとっては、蹴る気など毛頭ないのに、人間の方が大ケサにびっくりしたり、飼付けの時など、マセン棒の上まで肢を上げて騒いだり、本当にガキの様に憎たらしくて可愛い奴です。一月の終り頃からデコに乗る様になった訳ですが、左前肢骨痛だったり、馬場は雪で使えず、道路は凍っていて余り運動は出来ず馴致を主にしてやり、その間日頃の怠慢で学校の方が忙しかったり、追突して鉄サイで切った傷が思いの外深く一週間程休んだりして、そんな諸々の事が重なり、昨年の春頃の状態から調教は余り進んでいません。

しかし、デコは物を見ず、障害も自分から進んで通過する位です。肢の心配さえなくなれば、どんどんよくなって行くと思います。

しかし、今後調子良くなってきても、馬格が小さいので特に無理な要求はせず、徐々に確実に、昨年一年間北嚶に乗って感じたように、障害馬なら嚶子のように従順で、素直で、一寸神経質なものな馬を目指し、嚶子以上の馬となる様頑張ります。

ストローザ号のように馬格は小さくても活躍している例もあり、今後のデコの将来を長い目で期待してやって下さい。

だからだらくだらしない短い文章を書き来したが、これで安心して研修旅行が楽しくなります。だけど、和歌山の演習林は山の中にあります。非常に温かく、山も川も空も目にしみる程きれいで、北海道に比べ、こんな温かい地方で冬の間練習出来る学校は幸せだなあと思うと北海道と云う地理的不利をはねかえす為にも

頑張らねばと思います。

都井岬に行って野生馬を見るのが楽しみです。

北 農 号

中 寺 清 久

まず未熟な私に部の中心になる馬を任せていただいた事を感謝します。

先ず、彼女の健康状態から述べると左後肢の飛節内腫、それに加えて右前肢蹄冠の損傷、損傷の方は裂蹄の恐れがあったのですが、今では少し楽観できる状態になったようです。

内腫の方は去年の夏頃、発生して未だに治る見込みがつかない状態です。

固まれば、運動するのに支障はないとの事で、今一日置きに獣医でカルシウム注射を打っている。

今私に出来る事は無理をしないで早く固まるのを祈るだけです。次に今後の調教に関してですが、内腫が完全に治るまでは調教は考えたくないのですが、部の馬である限り、部の方針に従わなければなりません。部としては四月に入ったら、一応の運動をさせる様になっているので、北農もそのつもりで計画を立てなければなりません。

四月になって、馬場が使える様になったら軽い速歩運動をやりたいと思う。

北 凜

橋 口 庸

調子が良ければ、キヤバレッテや小さな障碍をまたがせ、徐々に運動量を増して行きたいと思う。

しかし、その間も未だ完全に内腫が治っていないのと、馴致が非常に不足しているので、練習には街乗を重点的に行いたいと思う。

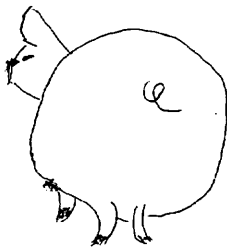
具体的な事はもう少し乗って彼女をよく知ってから、先輩諸兄の意見を基にしてやりたいと思うので、ここで述べるのは止めたいと思う。

試合出場の事ですが、私は未だ三年目ですので、彼女を二年計画で調教したいと思っていますので、出来ることなら出たくない。

しかし、先に述べたように部の馬ですのでそれもいっておられません。それで、その時私としては彼女の状態を報告して試合に出るか否かは、部の意見に従いたいと思う。

まだ未熟な私としては、今の所これ位しか書くことができませぬ。これから北農のチーフとして大いに勉強し努力して、その重責を果たしたいと思います。

まとまりのない文章ですが、これを以って一応の調教の方針としたいと思う。



一昨年の秋、競馬界よりいただいた馬である。サラブレッド当年五歳の騾

いただいた当時骨折していたため、普通の馬と同等の運動はできず、つい最近まで、骨折部の回復に意を注いだ訳で、やっとかなり激しい運動にも耐えうる様になってきたと思われる。

一年以上のこの馬との接触により感知したその性格の一部を紹介しよう。

通常のサラブレッド程悍は強くなく、燃えつきがおそい反面一旦火がつくと一途にエネルギーを発散させる傾向がある。

その性格はいたってノンビリしており、物に少々ぶっつけてもびくともしない鈍感さには困ったものだ。この馬を最大に特徴づけているのは、その強情さにあるようだ。

一旦こうと決めたら絶対に思い通りにやらねば気がすまぬたちらしい。しかし、反面この強情さが、この馬に活を入れているのは確かだ。この馬を今後良馬にしていくには、この強情さをいかかに利用していくかにかかっていると思う。

この性格を全く否定することは不可能で又この馬の良さも同時に否定することになると思う。その為には上の人間は並々の決意で乗ったのではだめだ。この性格に打ち勝つ決意と努力が一体となりえた時に、この馬に栄光が輝くことであろう。

北海道の長い長い冬もやがて過ぎんとしてゐる。春を待つ若駒

である。

北

興女

松井 亮

調教記録など書ける段階ではないので、現在の北の様子も簡単に述べておきます。

この馬にしては珍しくこと二月ばかり故障もなく順調に練習しています。唯一つ悪い事は障碍前後で興奮しやすくなった事で障碍通過の時など突っ走ることがよくあります。

冬農字部の裏道で練習しましたがこの時、道の両側にある支柱或いはバーを非常に警戒していたので、ここで不注意に障碍をとんだのが良くなかったと思います。

練習内容は最初の並歩を長めに、速歩を多くやり、施回を繰り返して障碍をとぶという練で行っていますが運動量は若い馬の七、八割です。

とにかく試合用の馬なので休ませる時は十分時間をさき故障をささぬようもって行くつもりです。

北 雄 号

加藤 公 敏

○紹介

先登諸兄弟には北雄号と申しまでも、耳慣れないと思います。できれば実物や写真を見ていただけなのが残念ですが、一応想像いただけるよう紹介したいと思います。この馬は去年の七月末に北大馬術部に入厩いたしました。第一印象はとにかくでかいという感じでした。体高一六九センチメートル程、体重は五二〇〜三〇キログラム（現在、たいした運動をしていないので飼料の方も少なめですが）体の大きさのわりには肢間が狭いので、横へ方には弱いのではないかと思います。北雄が中央競馬で走っていた時の名前はヤマズミオウでしたが、左前肢の腫（エビ）のため、出走できなくなったところを池内氏の御努力で北大につれてくることができました。入厩させたころ、エビと申しましたが、全く目立つ熱もなかったように記憶しております。大きいだけあって骨太で、これに肉がつけば、すごいやつになるのではないかと想像されます。街乗に出ても、自転車などには全く意に介さないかのように歩いてくれますので、今後も事故を起さないようにして、馬に恐怖心だけは与えないようにしたいと思います。しかし、チヨコマカした犬などには弱いようです。大男総身に知恵が回りかねの感を少し与えるかもしれません。五歳、性質がおとなしいのと将来のことを考えて、まだ去勢しておらず、北大では珍しく雄のままにしております。

○現在までの健康状態と調教段階

はじめ慣らす意味で厩舎の内で馬装をして、エビのことを考えながら常歩で騎乗しておりました。しばらくしてから馬繋場で手入するため、馬繋柱に繋いだところ、ものすごい「そっぱ」をして柱を抜いてしまひ、馬がしりもちをつくほどでしたので、馬には飛節のすり傷・管やモクシユのところの傷などをさしてしまひましたが、その日はそっぱするのをあきらめさせるために、なだめすかして何度も繋ぐことを繰返しました。翌日からは危険を防ぐために引綱をゆるくナスカンに結んだり、荒縄を中継して結んだりして、落着かせながら、馬繋場で手入することに慣らすように努力いたしました。それでもはじめはよくそっぱをやられましたが、いまではよっぽど馬に苦痛を与えない限り、しなくなつてまいりました。(このそっぱが、後肢に相当悪かったようですが)馬繋場で軽く腹帯を締り馬場で締なおして、前肢を伸してやり騎乗しております。エビを考へてほとんど常歩でしたが、十月三日ごろから様子を見ながら、五分速歩、五分常歩というように交互にやってみました。北雄という馬は休めの姿勢にしておきますと右へ右へと寄る癖が著しく、常歩、速歩の時でも、人間が油断しているとき必ず右の方へ寄つてしまひ、曲つてしまひるのである。それを防ぐためにどうしても左の手綱を強く引きすぎると傾向が出てしまひます。これは馬の口にとつては全く悪いことですので、注意しながらハミ受けをしながら脚を使って防ぎようにしてあります。左前肢の様子を見ながら、少しづつ速歩をする時間を増しつゝ、一日三〇〜四〇分ほどになり、キャバレット通過、ポブラの飛越ができるようになったころ、左後肢の球節の内側に熱

が出てきた。この球節は幼駒の時、牧場の柵にぶつくて傷を受けたらしく、右側より大きくなつており、小栗先輩が以前から心配された様になつてきました。一週間馬休にしてみて、熱の引いた後、再び速歩を行ったところ、また熱をもつようになり、少し跛行きみになるので、又常歩だけの状態が続き、肢を見ながら速歩を入れていくようにした。馬体管理のまずさから右後肢にケイクンをおこらせてしまつて化膿させてしまつた。腫れが管の上まできて跛行が出たが、常歩で乗り続けました。獣医に肢のことを詳しく診察を受け、左後肢は大丈夫であるが、右後肢の滲炎で腫れているとのこと。この滲炎はソツバによる後肢への負担が大変影響しているとのこと。全く注意が足りなかつたようである。小池先生から三日連続して健康馬と同じ練習量又はその半分ほど使用して、肢に出た症状が何日間ほどで直つていくかを観察して、それから馬に合った運動量を出して行くようにとの指示を受けました。用心して半分の運動量で行つてみたが、予想に反して左後肢の球節には全く熱が出ず、右の方が少々悪化しただけであり、熱がひくには三日かかった。あまり的確な結果は得られなかつたが、今後も許すかぎりこのようなことを繰返して治療に台せて運動量を決めていきたいと思ひます。調教内容は常歩が多くを占めていたので、あまり進んでおりません。停止の調教・口笛を吹きながら、脚を締めるように使つて手綱をひかえる。これで停止しないときには手綱を引き続けてとめ、この時、頭が高くなつたらいくぶん手綱で首に自由をあたえて鞭でおさえるようにして下げさせる。これらの操作を繰返してやると、本当にスムーズに停止するようになってきました。後退も停止と同じように脚を

使って二・三歩下ったら愛撫してやる。頭が高くならないように注意していきます。全く覚えがよい馬で、初めはスムーズ性に欠け、巻込みなどが見られたが、最近ではそれもなくなってきたようである。速歩発進・脚をしっかりと同時にハミを強く受けて発進させます。早く確実に覚えさせて、軽い扶助で発進できるようにしたいと思います。左右の回転の調教・左右の旋回・輪乗りを行っていきます。北雄は右への回転は癖から考えても困難さが、さほどみられません、左への回転は体を固くして、ハミに粘って行く。特に左旋回は多くの練習が必要であろう。

以上現在までの北雄の健康状態・調教段階を述べてまいりましたが、肢からくる故障が障害となつて調教が遅れておりますことは、全く残念なことであります。肺心運動・耐久運動・筋力をつける運動などが予定通り進まない状況ですが、この馬の潜在的な能力・覚えのよさから考えますと、将来は多少の起伏などはあると思ひますが、前途洋々としていられると思ひますし、必ずや部の中心的な馬にならましよう。

この馬の調教には小栗先輩の直接の指導を受けておりますし、北雄がここまで持ってこれたのも小栗先輩のおかげだと思っております。以上北雄号についての報告です。先輩の皆様方には説明の足りないところなどがあるかもしれませんが、御助言をいただければ幸いです。

原稿編集委員がボサボサしているうちに、今年もダービーの時期になった。

毎年大掛かりになり今年のは「昭和元禄最大のショー」とか、「五十億円ダービー」とか言うのだそうだ。

我輩は二年前のダービーにおいて「チカラ」と言い名で走り四着になった。

肢の故障さえなければ、まだまだ活躍しているだろう。

詳しい事情は、我輩にはわからないが、昨年の八月下旬に函館の競馬場から馬運車に乗せられ北大にやって来た。

函館では良くされていたので新しい所へ行くのはイヤだった。ひどい厩舎に入れられたものの、思ったより良さそうな所なので安心した。

ところが、半月ほどたつて、この世の地獄と思われれる経験をした。

四本柱に縛られ、大勢の目の前で我輩の・・・アア思い出しても忌ましい。

北海道の冬は寒くかつ長い。

この冬の間ずっと我輩は肢の故障のため並歩しかしなかった。

そして春、依然として肢は良くなるらない。

人間どもは何か言っている。

「肢が直らなければ仕方ない離厩だ。」

「半年間、無駄飯を食わせた事になる。」

「サラブレッドだけあって頭は良いし、扶助もすぐ覚えるから惜しむ。」

獣医で肢を見てもらって一度は、あきらめた方が良いと言われたが、結局一カ月思いきり使ってそこで決めると言う事になったらしい。

我輩は命じられるままに走ったが、やはり肢は直っていなかった。

跛行のためしばらく休んだが、なんとか良くなりまた運動が出来るようになった。

人間どもはどうか知らないが、我輩は期待と不安で一杯だ。

庄 内 歯 科 医 院

院 長 庄 内 貞 夫

札幌市白石中央通 53-3 TEL 86-2504

卒業生の行方？

今春三月、馬術部と云う薄汚ない世界から華々しく社会へと飛翔して行った諸兄。

その後は如何なる生活を送っているのでしょうか。
先づは、昔々の面影を偲びましょう。

田中 力 昭和四十年入部・獣医学部卒

フエミニストと胴の長さで有名でした。男子部員にも話の分る優しい先輩でした。そこで誰かは考えました。一男であれ程なんだから、女の人にはさぞ優しかったのでは。又、卒業の間際迄騎乗し続け、難馬の北号を見違える迄に調教してくれました。

現在は雪印乳業の花巻工場の独身寮にて一人寂しく暮しているとか。

斉藤 勝雄 昭和四十年入部・農学部機械工学科卒

わがままなお坊ちゃん。でも下級生にとって話の分り過ぎる程に分り過ぎた、とても良い先輩。

情熱の人。だって、とうとう結婚してしまいましたものね。それで北晨号が振られたと悲しがったとか。

今は、愛車に愛妻と愛児を乗せてマイホームのババ。本当かな？
札幌に勤務中。

村井 弘一 昭和四十年入部・農学部畜産学科卒

日々彼の口にナツメロあり、彼の手に麻雀のバイあり。蓋し名言でありました。

北斐に騎乗し、数々の戦績とエピソードを残されましたが、後半学業等々の関係から現役を退かれていきました。
現在、横浜に勤務。

札幌駅を発たれた日のあの背広姿が今ではもう板についている事でしょうね。

春田 恭彦 昭和四十年入部・農学部畜産学科卒

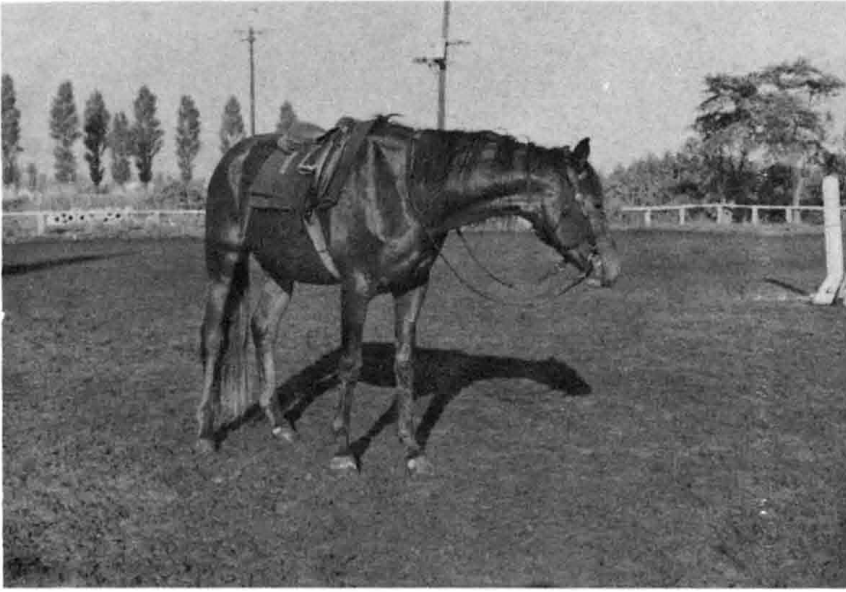
四十三年度主将兄は、考える所がありまして現在機を待つべく日高の実験牧場に日を送って居ります。

色白い（気持悪い程白いとは、色の黒い私の僻みでした）都会育ちの人でした。

又、前年の五十嵐兄に引き続き、愛馬北翔号にて、国体の北海道代表選手となりました。

兄には、その器用さが災いとなって、貧乏になるのではとの噂あり。それ程に何んの仕事にも器用さを発揮した人でした。

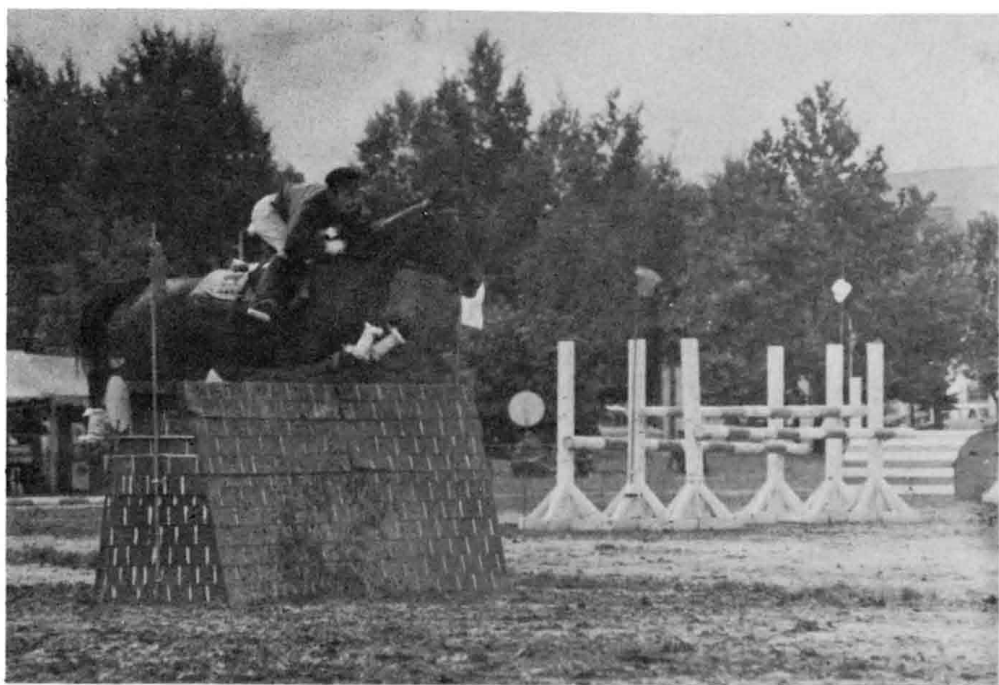
新馬紹介



北 雄 号



北 力 号



国体出場決定!! 春田兄とチビ



田中兄と北彗号

函館の馬術部

山本 進

北海道から本州へ、または本州から北海道へ旅する人は必ず函館を通る。

津軽越えればヨ一

水産校が見えるヨ一

屋根の下にはヨ一

バカが住んでいる ダンチョネ一

のうたが聞こえてくる。

このうたは水産生が好んでうたうたの一つである。この地で水産学部馬術部は再建された。

昭和三十七年に荒木先輩をはじめとする諸先輩の努力で馬術部が作られた。しかし、先輩方の卒業と同時に部活動は止ってしまった。武田と私は、先輩諸兄の努力に報いるべく、また我々の可能性を試すべく馬術部再建に全力を傾ける決心をした。

我々は最初馬術部として活動が続けられるかどうかの検討から始った。

馬に乗るには競馬場の協力がなければ全く不可能である。幸い函館には函館乗馬クラブが存在し、わが北大馬術部の第四代部長を務められた現在函館高専の校長をしておられる太秦先生、昭和十五年の主将を務められた現在水産学部の教授をしておられる西村先生、乗馬クラブの平事務長などの方の敬励と競馬場の御好意とで馬に乗れるということが可能になった。

次に部員の募集である。札幌で馬術部に入っていた学生、乗馬に興味のある人達に声をかけた。その結果、学生、大学院生、職員、先生と各層から十数人の人達が馬に乗ってみたいと申し出てきた。

しかし話が進んで行くにつれて、はたして水産学部馬術部にどれだけのものができるのか、何を目標にして進めば良いのかという不安が雪ダルマのようにころがせばころがすほど大きくなっていった。この不安を和らげてくれたのが西村先生であり、乗馬クラブの人達であり、福永さんをはじめとする競馬場の人達であった。またこの不安に立ち向う勇気を与えてくれたのが北大馬術部の援助であり、一年半の札幌の生活であり、水産類の馬術部員のためという気持であった。

水産学部馬術部は、札幌の北大馬術部に較べ規模や伝統の点で劣るが馬術を通して我々の主体的、自主的行動を十分に発揮できるクラブとして存在し得ると信じているしまた確信もある。ただ一番の問題が部員の継続的確保ということである。我々学生はよく川の流れたとえられる。もしその川の流れが絶えた時、その川の魚は死に、川泳ぎも魚釣りもできなくなる。所々に水溜りのようなものができるであろうが、そんな所ではほろふらしか住むことはできないであろう。川にはいつも新鮮なしかも栄養の豊富な水を供給する水源地を確保しておかねばならないのである。水産学部馬術部はそれを札幌の北大馬術部に求める。すなわち札幌の馬術部は我々にとって馬術の技術、知識、マナーの源であり、部員の源なのである。この事は札幌の馬術部にとって重荷となるであろうが、ぜひお願いしたいことなのである。水産学部馬術部

はこれらのことを土台にせずして発展できないのである。しかしかといって、札幌の馬術部に全面的に頼ろうとか、模倣しようとかいうのでは決してない。水産学部馬術部だからこそできたというものを作り上げたいのである。それがどんなものであるか私にはわからない。時がそれを作ってくれるだろう。

それを信じてペンを置く。

北大馬術部に栄光あれ

北大水産学部馬術部に栄光あれ

馬の獣医的常識について

田 中 力

千葉先輩が言われたなかに「調教とは馬体の管理、教育、学習の三つの総称だ。」という意味のことがあった。後二者については騎乗中にすべき当然のことだが、馬体管理についてはまだ知識のうえで充分とはいえないと考えるので、潜越ながらこのことについて述べて部員諸兄姉への別れの言葉としたい。また日常の管理についてはあまり自信がないので獣医的な見地から日常みられまた私の知っている馬で現在なっているもの、また過去にかかったことのあるものなどについて述べてみます。

一般外傷 これが一番頻度が多い。半分以上は人のせいだそうである。このごろは北馬にあまり出ないのは喜ばしい。場所によるが、大体において創口をはっきりわかるようにし、体毛による汚染を防

ぐ意味でまず毛を刈るのが常識。出血があれば止血し、泥などがついていたらとりのぞいて水洗いなどする。あまりよごれていなければオキシドールとヨーチンを使って消毒する。傷の深いときや創口の大きいときは獣医に見せペニシリンを注射してもらった方がよい。北大構内は破傷風の汚染地帯であるので傷にともなう疼痛や増温などに注意する。

腱炎——硬結腫脹したものをエビハラまたはエビという。前蹄、運動過度などが原因。軽種に多く北馬の北雄、北力などは競馬で足を痛めて北大にもらわれて来た。ルイシーも本病にかかった。獣医に相談するのがよい。

飛節内腫（ホネダル）——飛節内側に生ずる骨瘤で、北晨、北翔がいまかかっている。動きはじめに跛行がつよく歩いているうちになおってくる。骨格の不良とあるいは前蹄の失宜によるのが原因で、遺伝的素因がある。新馬を入れるとき飛節に注意すべきだと思う。対症療法をとるとされる。すなわち増温には冷却。冷えたらあたためる。骨瘤を固めるようにする。

管骨瘤（ソエ）——四肢骨瘤中もっとも頻発しやすく、北大の馬にもかなり多い。北翔、北尊、北秀など。原因としては肢勢不良。良好の場合でも管理や運動の不良などによっても出現する。即ち劇役や乗御の拙劣（急停止、急旋回など）による。前蹄に際し内側を多削してもらいようにするとよい。発生する位置によって運動にさしつかえる。つまり前方、下方ほど軽く、後方、上方程跛行などをおこしやすい。対処としては早期発見して獣医に行くこと。敏感な管理者は骨瘤が出る前に局所の増温に気がつくはずである。

趾骨瘤(ワマゴブ、シツカメ)——冠骨(第二趾骨)と蹄骨

(第三趾骨)との間に出来るもので骨瘤中最も危険である。北農が出たことがある。遺伝性ありとされ、外から触ってみてすぐわかるのはむしろ軽症で、関節面に近いと跛行しやすい。本症は跛行するまであまり気がつかないようである。

軟腫——四肢の関節などに出やすく、球節、飛節、膝などに水性もしくは粘稠性の骨液が貯まるもので普通は心配ない。なるべく硬結や著しく大きくなることを防ぐため、つまり運動障害を防ぐため練習後にわらでたまりやすい箇所をマツサージし、一日一度は運動するようにする。老齢の馬で心臓の弱いのに出やすい。

鞍傷——鞍による持続的圧迫マツによる炎症で、馬側によるときと鞍側によるときとがあるが問題は馬に適した鞍をつかうことであるが経済的な面からなかなかうまくゆかない。鞍傷に受けやすい馬は鞍をとり換えるか、柔らかい毛布を使ったりして未然に防ぐこと。また乗手の拙劣な騎乗法も原因の一つであることをわすれずに。脱鞍後、三〇ないし一時間後に発症するといわれている。発見したらまず原因の除去が第一。治療は皮膚が何ともなく下部で冷感のある(滲出物がたまっている)ときは、ヨーチン(局方の五〇パーセント濃度)などを塗り、熱感あれば冷やす。皮膚に炎症のあるときは刺激のないものを選ぶ。獣医に診てもらって適切な処置をする。我々の経験では鞍の不適合と毛布やゼッケンの手入れ不良によるものが多かった。夏など月に一度ぐらいは毛布を洗濯したい。とくに汗が乾いて硬くなったのを無神経に使うことは良くない。鞍を後援会に頼んで二、三基あつられてもらうこともいまの北大には必要と思う。北藝が昨年鞍傷を負ったと

きは、ゼッケンの裏に毛布をあててそれを直接馬体に乗せて成功した。つい最近、北農がかかったが、北大の鞍は古いので鞍骨がひらいているのでやせた馬は鞍傷になりやすいようだ。

綱傷(ツナマキ)——引綱を緊部にまきつけ、しめつけると同所の坐滅、血行障害などをおこして、跛行の原因になる。緊部は皮下織や筋肉にとほしく、骨と腱、脈管神経が主体なので腱などはいたみやすい。最近はあまりないが、馬をつなぐとき人が見ている所につなぐようにすること。

緊部——原因はいろいろあるが緊部におこる皮膚炎を総称していう。要は良く手入れすれば良い。

骨折——北飄号を失った苦い経験からこのようなことが今後絶対に起こらないように注意して下さい。

裂蹄——伸びて来る蹄が割れているので半年以上は使役にたえない。北翔がまる一年棒にふったことがある。冬から春にかけての蹄冠部の損傷には気をつけること。鉄蹄をつける位置やその鋭さ、それに深い雪の中を歩くとき注意すること。交突や追突とともに騎手の技術に左右されることが多い。もし深い雪や地面のやわらかいところを行進するときは急旋回は避け、可能ならば手綱をのばし騎坐を確実に保ち用すればたて髪につかまるが良い。そして馬が難局を突破するまで馬の自由を束縛してはならない。

骨軟症——病理学的には繊維性骨栄養障害症といつて骨形成に必要な養分が不足することによる。骨瘤、骨折、腱剝離などをおこしやすく跛行の原因ともなる。病状が進めば食欲不振、消下障害ついに起立不能となり死亡する。冬のおわりから青草のでるまでの間に出やすい。原因は燕麦に含まれているリンに対してカ

ルシウムが不足するとビタミンD不足による。二月、三月は努めて日光浴させるようにすると良い。初期診断はむずかしいので予防に注意し機会あるときに家畜病院で診てもらえば良い。

夏癩——夏になると長毛部がゆくなり脱毛する馬がいる。北翔など。運動障害はないがかっこう悪いし、第一調教上、管理上良くない。原因不明なれどアレルギー説が有力。

疝痛——馬の腹痛を総称していう。不安な目つきをしてマエガキをしてときどき自分の腹を振り返る。重症では発汗し、ひどいときには横臥する。このような様子があったらすぐ獣医に連絡すること。北大ではないが時期を失して愛馬を死なせたところがある。原因症状によって過疝、風気疝、捻転疝、ケイレン疝、便秘疝などに分けられる。

輸送熱——貨車積などで熱い湿気の多いところに長期間においておくとストレスが加わって発熱し、往々肺炎に移行することがある。体があたたかかったり眼がうるんでいたら体温を計ってみること。異常があったら獣医へつれて行く。デリー、北翔。

日射病・熱射病——暑いとき直射日光を長時間晒したとき又は熱いところにおいて水分が不足したりすると呼吸困難や体温上昇などをひきおこす。処置としては涼しいところで休ませて獣医にまかせる。畜大の勇勝。

ここに書いたことでもし誤りがあったら、おゆるし下さい。もし疑問があったら御連絡下さい。私でわからなかったら獣医の先生方に聞けばわかると思います。それでは立派に馬を育てて下さる。

日本中央競馬会

札幌競馬場

北 1 4 条 西 1 9 丁 目

TEL (72) 0461~5

場 長 大 木 睿

思いだすままに

東園 基文

十年ひと昔といいますが、私が北大馬術部に入っていたのは昭和六年ですから、もう三十五年以上も前の話。それにその後の世の中は敗戦によって大きく変ってしまいましたし、現役の方々からすれば、まだ生まれる前の昔々の物語ともいえるかと思えます。なにしろ、学生食堂のランチが十五銭、駅前の西村のシュークリームが四銭、ビール一本二十六銭位だった時代のことです。

当時は道内に大学といえば北海道帝国大学ただ一つ。高校といっても大学の予科と、農学実科、水産実科の外には小樽高商がある。馬術部といえば学部と予科だけ。学部は正に一国一城の主、予科はそのお世継ぎといったところ。まこと道内は天下太平でありました。それに引替え関東勢は関東学生選手と呼ばれる選り抜きのエリートの一団、関西勢との定期戦もあり、かたがた全日本学生選手権にはひそかに我こそは、と母校の名誉にかけての精進振り、北大が広い北海道に並ぶものなきつわものと一緒にやりをいっていたのでは、何んの田舎侍めが、と天下の侮を受けるのが関の山。

ところで当時の部の練習状況はといえば、土曜の午後と日曜日の朝、月寒の歩兵二十五連隊の馬十頭ばかりでの練習が唯一。部

に馬がいる訳ではなし、なかには市内に只一つの乗馬倶楽部に乗りに行く有志もありましたが、あとは冬休みとか夏休みを利用して、旭川の騎兵第七連隊へ管内又は将校宿舎へ泊り込みの強化練習に出かける位のものでした。その点東京市内に士官学校、陸軍大学校、砲工学校を始め近衛師団、第一師団の乗馬部隊、或は陸軍将校軍馬補充部とすぐれた乗馬が手近に沢山いて、学生馬術に便宜を計って貰えるのは大違い。

歩兵軍隊の馬は調教も歩兵なみ、踏歩変換を満足に出来る馬はまずいないといってよい状態、障害も一米三〇も飛べれば上の部。それでも私が号令をとるときなどに激しいものでした。三蹄跡運動をしつくり返えされて、いい加減いや気のさした方もあったかと思えます。馬の脾腹がおれようが、おれまいが——内方脚の扶助に馬体が従うかどうかなどにはかまわずに——内方姿勢の正しい扶助を要求しました。

またときには日曜日に遠乗をすることもありましたが、豊平川の畔を林檎の枝もたわわになった農樹園にそって軽く速歩でゆくとときなどの気分は上々でした。部員の中には片手手綱で、きよろきよろと周囲の景色に心をうばわれている人もありました。そんなとき私はみんなに聞えるようにどなるのでした。「これも大事な練習の内だ。馬の苦勞を考えて、手綱を分け、心を引きしめてしっかり乗れ!!」と。私の気持としては、こうしたときにも、人前に出て恥かしくない正しい姿勢——背筋は程よく伸びているか、拳の位置は、形は、そして膝は正しいとはいえないか、——が自分のものになりきるように、つまり、一見のどかを速乗でも騎手の心懸け次第では、向上進歩に役立つものである。また役立た

せねば馬に申訳ない。部員たるもの物見遊山に馬に乗るんじゃないといいたかったのです。

その位です。旭川までドンコに揺られて四、五時間。騎七の営門をくぐれば万事兵隊なみ。馬を二頭づつ当てがわれて午前午後の猛練習。馬の腹までとどく夏草茂る近文台を後へ続けと距離一〇歩、駆歩進め！垂直に近い斜坂の登降に、少しでも歩度ゆるめば、この意気地なし！！と情容赦もあらばこそ。

当時の騎士は騎兵学校の教官だった城戸三少佐が隊付としておられた直後だったので、営門外の障害馬場はほとんど騎兵学校の裏馬場そのまま、連隊裏には自由飛越用の立派な円馬場もあった様なので、下士官の馬でも一米六・七〇飛ぶ馬はざら、私が神宮競技——今の国体——に出場する前に一人練習に行ったりきなど、須田曹長が中隊の事務が忙しくて馬など乗っておれないから乗ってくれ、と貸して下さった幌梅という馬で、たった一人赤煉瓦の覆馬場の重い扉を閉めて、一米八〇の横木を渡かんぽかんと飛んだもの。踏切りそこねて横木を蹴散らすこともたびたび、誰一人見てくれる人も、手伝ってくれる人もない練習。ワシの馬も、オレの馬も、といわれるままに一日五頭、その足を藁でこすってやること一本百回、毎日二千回馬の足をこすり、馬具の手入れをして、夕方独身将校宿舎のただっ広い部屋に帰れば口きく人もなければ、ラジオも新聞もない生活。恵まれているといえ、これ程の練習の出来る学生は当時としてもそうはいなかったと思います。

しかし馬のいる今の馬術部。それなりに我々の体験しなかったご苦労の多いことも解りますが、それに比べれば我々が懐しむ当

時の部生活など、所詮は岡に上った河童同然。中には夜になると芋畑ならぬネオンの街にさまよい出る人もありました。しかし当時の部員の面々、髪こそ薄れ、頭に霜を載く人も多いのですが、老いてますます盛、それぞれ立派に社会の第一線で大活躍。会えば無精に懐しく、語れば当時の思い出の数々が昨日のこのようによみがえって、部生活が我々を結んでくれたその絆の強さを、そして切ろうとして断ち切ることの出来ない北大馬術部と我々の結びつきを感謝と共に思いおこすのです。



初 の り 昔 今

同好会幹事 佐 合 義 弘

今年は何故か正月の三日間極めてゆったりとした気分でもした。お蔭様で三日共馬の顔を毎日見る事が出来て私にとっては又とない良い正月だったと思っっている。

しかし、何時も御一諸する半沢先生がおいでにならなかった事は淋し極みだった。

私も市民生協に移籍してから早や三年目、初のが出来るなどは年末の多忙を極める仕事の中では考えも及ばない事だっただけに北大に向う車のハンドルも軽ろやかに感じた。

さて、行きは北環に乗ったが、北楡とかチビ以外に殆んど乗らない私にとって北環に乗ると「馬上ゆたかに」と言葉を思い出した。

十年前の頃はどの道路もアスファルトになってなかったで思うままに馬を進める事が出来たし、車も極めて少ない。まして正月の朝ともなれば殆んど車の影がなかったのに対して、今は二人の部員が自転車で先行し道路横断ごとに馬の安全を確保せねばならないとは大変な事だ。足もとはずべる、車は多くなる、こんな調子だともう『初のもりで神社までチョット』などは考えられない時がもうすぐ来るのではないかと思われる程だ。

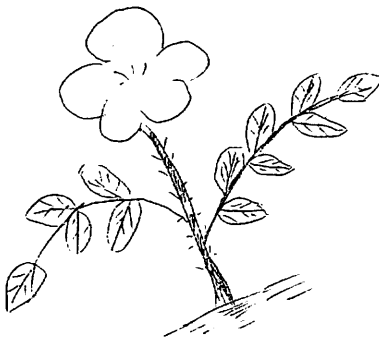
十年一昔と云うが今や五年一昔、いや一年一昔になるかと思わ

れる程周囲の変化は激しい。外乗に出る馬に対する注意は充分にするべきであろう。

最後に一言馬の平常管理の事について、「無事は名馬」と云う言葉があるが、馬が自分で発生させる事故より、部員の不注意による事故の方が多いと思う。即ち飼育管理の知識不足によるものが最多である。周囲の近代化、変化とともに馬に対する飼育管理は変化しなければならぬものと、そうでないものがある。

緊養馬の頭数を気にするより如何に事故馬をなくし全馬匹を善用出来る様にするかを飼育管理の第一とすべきであろう。今年も全馬、全部員の健斗を祈って。

一月一日



おたより

昭和四十一年卒 高野文彰

またしても卒業の期が近づき、春田、力、勝男等もいなくなり、ますます馬術部も遠くなりゆく感じがします。凍てついた雪道の下からせまりくる春の足音の中で四年間の甘い感傷にひたっていた頃のことを想いおこしてみると、なんとも気恥しい気持。ともあれ、来シーズンの健闘と卒業生の前途をいわって。

Fwmiaki Takano
404 Morris Hall
UGA Athens
Ga. U. S. A.

札幌陸運局認証工場

北大モーターズ

小野忠

札幌市北18条西5丁目

TEL (71) 2076

他人の顔

神様の巻

本田 徹

第一印象、とにかく汚い。でも頭の内面は違います。読書によって磨き抜かれている様子。二年目の大見君と並び賞された所には食物に対する異様な迄の執念の為でしょう。

橋口 庸

九州男児らしく、おおらかな心の人。兄の顔には微笑えみが絶えず（それが消えた時は兄が再試を受ける時だとか）口にはヒツツソングが絶えない。

医学部ってそんなに閑かしら、誰しものが首を傾けずにはいられない兄の生活です。バチンコの名手か迷手かは判然としていない。

篠崎 正樹

医学部トリオの優秀生。他の二人の為に兄までも誤解を受ける事を日夜心に悩んでいるのでは。可愛いなんて云っているのは誰ですか。練習でシゴカレマスヨ。

加藤 公敏

更にもう一年学校から残る様に望まれた兄ですが、本当に

仏のカトチャンです。それなのに、橋口兄等は平然と加藤兄を何トカ呼ばわりをするんですよ。顔が長いからって。やっぱり兄は仏のカトチャン以外の何者でもないですよ。優しい心の人です、ホント。

小野 政則

飄々たる人物。歩く時も、馬に乗っている時も、恐らくは眠っている時もある姿では。育ちが良すぎた所以ではないか。その風説繁々。

篠崎兄との飲酒コンビ。

余り遊び過ぎてはイケマセン。

今井 雅子

将来の良妻賢母ではないかしら。

でも考えちゃうな。だって、余りに頭が良過ぎるんだもん。

でも、でも地味でしっかりしていて頼りになる人。弟の敏郎君と結びつかされて盛んに今はやりの「ヒテとロザンナ」とか言われて、照れる事しきりの姉でした。

（その張本人は、やはり橋口兄でした。悪い人です。）

鬼の巻

松井 亮

ほかの皆よりも半年以上も遅く入部した彼もその熱心さで鞍数を増やした。彼は少なくとも三つのものを「かく」。

まず絵をかく。腕のほどはこの部報を見れば分る。次にイビキ

をかく。「いついかなる所でも眠れる」という特技は、この春から始めた夜の薄野のアルバイトに役立っているようで、朝早い練習にも毎日出て来る。また、台宿の時は、誰も彼のそばに寝たがらない。最後に簡単な計算能力に欠く。進級に必要な単位数を計算するのに、二と四を間違えて今だに医進である。

中 寺 清 久

北辰にぞっこんほれこみ名馬北辰号のカムバックを夢見、日夜（彼の夜といえは、長谷川と同様、マージャンか、たまったらポート書きしかイメージはわかないがともかく）努力をしている。三年目の中では、まあ一番のスタイリストとは云うもの。まだ子供供していて覚えてたの煙草をすうポーズも最近やっとなんとか様になっている。前歯が特徴の工学部機械科三年生。

堤 秀 世

名前と同じ字があると云うだけで北秀を好きになり、地上にいる時はきわめて重心が低く、馬に乗ると重心が高くなる。一年生の時は誰よりも熱心に講義に出ながら誰よりも不可を多くもらい、頭の大きさと知能には正の相関関係はない事を自ら証明した。

太 田 清 澄

「ナガノケンハマーツモト・・・」
あの新入生歓迎コンパで一番印象的だった彼も今や三年生。
男子五人の中で一番こわい鬼になろうとしているが、根はきわ

めてやさしい。マネージャーをしていて三年目の中では一番頼りになり、松永さんと並んでなかなかの詩人。

松 永 由可里

日高で行なわれた一年目男子の台宿の時の事、彼女が行くと大歓声がおこったとか。特に○のうれしそ顔を今は今もって語り草となっている。一年生の時には、家が遠かったのに鞍敷も多く男子顔負けの頑張り屋だった彼女も最近はどうした訳か気が弱くなったようだ。チビを忘れるほどの好きな恋人が見つかった様子もまったくないのに。

長谷川 仁

馬術部一の長い足を誇る。併し、彼全くのガラなる身体である。でっかい目でギョロリと人を見る。体といい目といい真に大きい事はいい事だである。学校が忙しいという割には、勉強していない。しかし、実にスレスレの所で難関をいつも突破する悪運の強い男であります。

人間の巻

併 井 明

人なつっこい笑顔が汚いチヨビ髭の中に浮ぶ。併し、最近何かに疲れている様子。考える事もよし、悩む事もよし。併し、本当の君を失うなよな。酒気が入って少し興奮すると、乱暴な大阪弁が飛び出してくる。このアホンダラメ、ドツカレルナヨ。何年か振りに、一年目の鞍敷が二百を越した非凡なる男。

梶村哲世

落ち着き過ぎてはいませんか。一体心の中では何を考えているのか判らない男。併し、以外に単細胞なのかも。いやいややっぱり正体不明なる奴。君なんぞを中心にもっと纏まらなければ不可ない様だ。良かれ悪しかれ繁々大阪人の気骨が伺われる。しっかりやってね。

大見太一

本田兄とトツプを争う臭覚の持主。但し、最近、兄を遙かに凌いで実績を上げている。曰く「彼の在る所に食い物あり、食い物の在る所に徒あり」である。九州は小倉の産の、彼又九州男児ではあるがどうもこれは肯定し難い。女子勢力盛んなる高校で彼の心が歪められてしまったのか。又、一寸字にする事は憚られる特技？なるものを持つ。昔さん御用心の程を。

寺島亭

ヒネている。いやヒネ過ぎている。反抗精神の塊りである。又女と見るとケナす。女嫌いである。併し、初恋を語ってしんみりする彼も又、本当の彼ではないだろうか。エツ、そんな事は信じられなくて、彼だって照れてそんな事は認めないだろうけど。パチンコ、麻雀と賭け事に熱中している。身を持ち崩すなよ。大丈夫だって。馬術部の伝統を立派？に守って、更に一年教養に届った男でもありました。

今井敏郎

「坊や」である。そんなちまたの声に反抗してかコンパでは甚々酒を飲む。併し又その後が可愛い。いつも今井姉が出来る悪い弟を心配げに見詰めている。併し、そろそろ「坊や」の域を脱しつつある彼、二年生ならぬ二年目の貫禄だろうか。又、運動神経に抜群のものを持っている。特にスキーマの名手とは、流石道産子でありました。

中村慎一

只一人の水産学部生。函館での活躍を期待しているよ。彼も又本場の所、分りにくい男。仲々に出来ている。社会の裏にも良く通じているんじゃないかなんて思ってみたりもしたくなる様な彼。でもやはりロマンチスト以外の何者でもない様な気がする。一昔前の名映画にうっとりし、主題歌に聞き惚れている彼ですもの。

山川博章

日本のチベットの岩手の産。まさに、その風貌である。トボけているのか、本心なのか、こちらの方が愚弄されている様な気持にさせられてくる。彼の乗馬服姿が表われるや皆が笑い出す。誰かが言いました。「あっ、馬喰だ」と。

迷 作 展



誘 導 馬

三年目 堤 秀 世

昨年の競馬場のアルバイトは春になかったため、秋には一人八回ほど当った。一昨年、一年目の時には、下見所とか検量所、鞍所と云う比較的のんびり出来る所ばかりであった。誘導馬は主に二年目がする事になっている。昨年は、ほかの人の分もしたので誘導馬だけで八、九回し、別の仕事の時も数回あった。部報の原稿に何を書こうかなと思ひ、騎乗日誌をめぐっていると、この

バイトの事が目にはいった。以下思い出すままに書いてみよう。

「九月二十九日 初めて誘導馬をする」

乗馬クラブのユータイム号を使ったが、この馬は股が弱い。前日ほかの人がやるのを見ていたとは云え、まるで余裕がなく、もし人間が疲れていたら馬がつまりた時、落馬するかも知れないと思つて、その日の練習をさぼつたほどである。手入れの時暴れるから注意せよとの事であったが、同じするのならおとなしい馬より少しばかり暴れる方が手入れをしていても楽しい。馬を知るためにも準備運動のためにも、馬場に出る前に少し歩き廻つた方がよいというので並歩、速歩をする。いよいよ本番、下見所にはいる。騎手が皆、馬に乗つたら、「前へ進メ」という号令をかけた。自転車で道路を走っていたが気にしなかった。すぐあとで歌を歌つてごまかす事もあった。「前へ進メラランラン」

「前へ」まではなんとか出来ても「進メ」がうまく行かない。第一レースは観客も少なかつたし割りと気楽に出来た。ただ「お前の号令はスツスメーで、それなら突撃と云う調子だから、馬がいっせいに走り出すぞ」と冗談を云われた。三レースぐらゐまではただ夢中だったが、だんだん落着く事が出来た。勿論、観客の顔もじきに見えるようになり、何回目かの時には、同じクラスの奴が観客の中にいるのを見つけた。馬の上からよほど声をかけようかと思つたほどである。またヤジもすぐ聞こえるようになった。「もっと大きな声を出せ」とか、「メガネいいぞ」とか。

こうして第一回目はなんとか無事に終える事が出来た。

「十月四日 千七百メートルのレースで、行きと帰りに暴れられた。反抗され突走られねられ・・・」

走路にはいってからゴールの所まで百五十メートルほど数頭の競走馬を誘導して行く訳だが、千七百メートルレースは中間にゲートがあり、昔、競馬をやっていたユータムは、これを見ると非常に興奮する。余裕が出来てくると千七百メートルがないとさみしい気もするようになったが慣れないうちはイヤだった。千七百メートルでない時には、走路にはいってからゴールまで非常に長く感じられる。時々、途中で次のように感じた。「生まれた時からずっと今のように誘導馬に乗ってこのようにして来たのではなからうか。」と。

「十月十一日 一昨日、馬を興奮させたので拳を低く保ち乗り、なんとか無事終えた。ひき馬中に暴れられた。」

乗馬中は勿論手入れの時もひき馬の時も少しぐらい暴れても決してなぐったりはしなかった。出来るだけやさしくしてやったつもりである。しかしだんだん荒っぽくなり、時には、ひき馬中襲いかかられ、瞬間殺されると思った事もある。世話をしているおじさんにもかみつくそうて完全なる人間不信におちいっている。ある人はこう云っていた。「この馬はなぐらなきヤダメなんだ。俺は一度思いきり懲戒してやったが、それ以後一度もかかってこなくなつた。」ほんの数回会って、完全に仲良くなるうと望むのが無理なのかも知れない。毎日のように接している自分のクラブの馬に蹴られそうになる事もあるのだから。しかしやさしくしたら付上り、強くしかるとおとなしくなるといふような事ではダメだと思ふ。馬とは本当に不思議な動物だと思つづく思つた。ただ

後にある人が次のように云っているのを聞いて、今敢えて「付上る」と書いたのが当たっていないと思うようになった。「ひき馬している時、暴れると云っても思い切り体を伸ばそうとしている時もあるし、襲いかかるのではなく逆に人間に甘えている時もあるんだ。」

「十月二十五日 初日のため第一レースの帰り突走られる。準備運動の不足と不正確さを強く感じる」

十月十四日にチビに右腕を蹴られ、この間のバイトはほかの事をした。このバイトをやっていると、競走馬に直接、接する事が出来、騎手の人達と話も出来、馬券売場や様々な運営施設にはいって行けるので、競馬というものを一般観衆とは別の面から見る事が出来る。誘導馬をやっていると、さらに違った面から見られる。ゴールの鏡のある所まで馬を並歩で誘導して行き、そこに止って競走馬の方を向いていると、次々と馬達が駈歩で、今来た所を引き返して行く。並歩から駈歩に変わる時、清めのために尻に乗せられていた塩がバラバラと音も無く落ちる。ただそれだけの事だが、それを見ていると何とも云えない気持ちになる。また、ほかの所にいては、まず聞けない事もある。あるレースで騎手が落馬した。すぐ後のレースにもその騎手は出場した。下見所を出る時、ヤジが飛んだ。「おい〇〇、今度は落ちるなよ ハハハ。」誘導馬のすぐ後にいたのであろう、騎手が「チクショウ」と云っているのが聞えた。

「十月三十日 初日のため張りに張っていた。準備運動の時、相当暴れた。」この日と翌日の準備運動で二つの事を得る事が出来た。一つはヒツかけられそうになった時、馬をなんとか止める

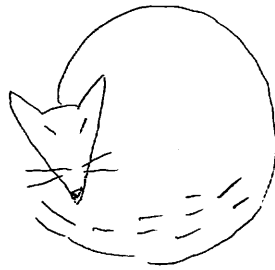
方法。丁度このバイトの頃を境にして練習に出る日が急に多くなった。一年目や二年目前半は、何かと理由をつけて練習をさぼった。馬に乗る事が少しも楽しくない。苦しくもあり、恐しくもあったのだ。まるで馬を動かす事が出来ない。めったにない事なのに、ヒツかけられるのではないか、ヒツかけられたら、また止めれないのではないかと恐れながら乗っている。誘導馬をやって準備運動で何回も突走られたが、段々暴れる馬をおさえられるようになった。喜劇映画ではあるまいし、競走馬を従えて走路を走り出したら、たいへんである。そう思ったので乱暴な方法でも、ともかくヒツかけられそうになったら止めれるようにと思った。左の拳で馬の首をおさえ、右の拳を上げぎみに手綱を引く。最近、毎日のように練習に出ているが、馬に乗る事が楽しくなった訳ではない。やはり苦痛である。依然として馬は思うように動かないし、一度興奮した馬をすぐには落着かす事は出来ない。得た事の二つ目は準備運動でハミに慣らすと云う事である。一日なし二日、ハミを一度もかまなかった馬に急に細かな運動を要求しても無理である。準備運動において少しづつハミ受けを強くして行く。抜勸したらすぐに人參を与える事を、ハミをかむのをイヤがらなくなっても続ける事は大切な事と思う。普段の練習において不本意ながら強くハミをひいてしまった時には、馬に何か簡単な事、たとえば口笛を吹いて停止させるとか、棒きれを通過させるとかをして、出来たら燕麥や人參をいつもより多めにやって口の苦痛を少しでも忘れさせるようにしている。

「十一月五日 アルバイト最終日」

肉にされると云われていたユータイムも、命だけは助かり、ど

こかの牧場にアテ馬として送られる事に決った。「馬に生れてアテ馬になるなかれ」という諺がある。しかし、肉にされるよりはよほど良いだろう。この日で誘導馬は終りと知っていたのだろうか、きわめておとなしかった。ゴールまで競走馬を誘導したら普通、速歩で帰って来る。ヒレース、八レースの帰りに観衆の中に「走ってみるよ」と云っている人がいた。それで九レースには駈歩で帰る事にした。この時の駈歩ほど気持の良かった事はなかった。十レースは、特別レースで、芦毛の馬で誘導馬をする事になった。前日まで競馬をやっていたとか云う馬で、始め別の人が乗る事になっていたが、急に僕が乗る事になった。準備運動をしてみるのが並歩はまるで進まない。斉藤さんに乗ってみてもらうが、「こりゃお前には無理かも知れない。坐骨の推進と舌鼓で進められない。」との事である。普段の練習では坐骨をつけるなど云われているから坐骨の推進なんて出来ない。絶望的な気持ちで見所にはいって行く。まるで動かない。うしろから何モタモタしているんだとどなられる。ヘタに拍車を入れると突走るかも知れない。後からついて来る騎手が「この馬はムチを持たなければ動かないんだ」と、これまた絶望的な事を云う。こうなりゃ奥の手だと、余った手綱で観衆とは反対側の首をひっぱっていた。今度は前に出るが、右に曲がってしまう。四苦八苦しながらもなんとか誘導を終え、帰りは並歩でテクテクと帰って来た。帰りとになると、どんだん前に出、この時の並歩も気持は良かった。十一レースはまたユータイムに乗り、無事誘導馬を終えた。終ったらしばらくして馬運車が来た。今頃どうしているだろうか。仕合わせに暮しているだろうか、それともやはり肉になってしまったらうか。誘

導馬として、乗馬用の馬として最後に乗ったと云う事もあって僕にとつて、ユータムは部の馬と同じぐらい忘れられないものとなる。



「そのように

杳かな夜には」

三年目 松 永 由可里

そのように
杳かな夜には
私のところへ
駆けておいで

お前は
星の牧場に遊ぶ
私だけの仔馬
悪戯っ子
くりくりした瞳は
深い海の色です
飛んだり
跳ねたり
その毎に
細いうなじで
金のたてがみがうねります

そのように
杳かな夜には

誰しも

子供になつてみたいもの

そつと窓をあけて

待っている

そんな自分を

ふかしく思いながらも



貨車積

梶村哲世

札幌に初雪の降り始めた十一月中旬東京の馬事公苑で全日本学生白馬選手権大会が開催された。

わたしはこの大会に出場する北大の馬の貨車積み要員として馬と同行することになった。

試台の全日程を終え、わたしは酪農大学畜産大学の入たちと共にそれぞれの馬を貨車に積みこんだ。貨車二台のうち一台には畜大の馬を四頭、人が二人、もう一台には酪農大の馬が二頭（駒栄・デイリー）、北大の馬一頭（北櫻）人は一人づつ乗り込み、午後五時に渋谷駅を出発した。

いよいよこれから馬と人間の共同生活が始まるのである。その夜いささかつかれてぐっすり寝込んでいたわたしは、酪農大の西岡さんの「起きろ」という声におどろき、パチクリと目を覚ました。貨車の中は真暗やみではじめのうちは何が何だかさっぱりわからない。よく見ると暗やみの中に馬の体がわたしの顔の上にあるのではない。こんどこそびっくり仰天してとび起きたものである。これは酪農大の駒栄がモクシをはずして逃げだし、わが愛馬北櫻のところへ寄って来て鼻を「スースー」鳴らしているのである。ところがあたりが暗くてどうにも動きがとれない。下手に動くとけられるかもしれない。わたしはどうすることもできず、身のちぢまる思いだった。そのうちに西岡さんが懐中電燈で照らし指示してくださったので、ようやく駒栄から逃げることででき、元の

ところにつなぐことができたのである。

それからはモクシをはずさないように水靴をかけることにした。しかし特別の場合をのぞいて昼の間水靴をかけず、モクシだけにしていたので、その後も昼の間はたびたびモクシをはずされるため、うっかり昼寝もできない始末だった。

二日目の夜のことである。突然寝ていたわたしの上に何かがかサツと落ちて来たので一瞬わたしは昨夜のことを思い出し、「ヒヤツ」とした。しかし、今度は北礮とわたしの間をへだてているタタミのつなが切れて落ちて来たのであった。ほんとに寿命のちぢまる思いであった。

三日目の昼ごろわたしたちの貨車はようやく青森の駅へ着いた。ここまで来ると戸外には小雪がちらつき客車とちがって戸を開けると思えば寒さなんかふっとんでしまった。

ところが、よろこんだのも束の間「海が少し荒れているから本日は馬の乗船はできない。」とのこと。しかたなく北海道行きはおあづけとなった。これは少しでも海が荒れているときは、動物や危険品は連絡船に乗せられないことになっているらしく、おかげで連絡船に乗ったときは、周囲の貨物は危険品ばかりだった。こうして一日半青森に足止めをさせられ、やっと函館についたのである。函館まで来るとやれやれ帰って来たという感じがした。

東京を発って五日目の夜札幌の手前の苗穂駅に着いた。ここでもまた、随分待たされそうだったし、青森での足止めのこともあるし、まだ電報も打っていないかったため、クラブへの報告と連絡をかね、馬は西岡さんにたのんでわたしは一人で貨車を降りた。

うれしくて、うれしくて札幌に近づくにつれて足は早まり心はおどろ、北大に着いたときは雪がとけてびしゃびしゃになった道を夢中でかけ出していった。

つれづれの記

二年目 寺島 亭

後僅かで新入生を迎える時期と成ってしまった。早いもので入部してから一年近く経過してしまつた事に成る。「成程一年経つたな」と思える程乗ってはいない。馬の区別すらつかなくなつた。最初の頃、夏の台宿、役員交代、雨が降り続き馬場のぬかるむ嫌な秋、と思つている中、寒くなり雪が降り出した。そしてそれまでと比して乗っている時間が非常に長くなり「こいつはいいぞ！」と思つていると、雪解けの三月に入り新学期は目前という時である。

初期の無知から来る期待と大望。次第に認識が深まり、それに伴う焦りと失望。今ではそれらを通り越しての皮肉な冷笑と絶望。無知なる者は幸いなるかな！

二

春。夜の明けやらぬ中に起き出し、延々一時間歩いて部室に着き、僅かな時間鞍にまたがる為、砂埃りに塗れて馬場の外に立って待つ。夏。殆どの者が練習に来ない。遠征やら怪俄が続き、乗れる馬は一頭だけ。毎日その馬に乗った。秋。退部者が続き、雨が降り続き愛うつな気持だった。ろくに練習に出なかった。部室へも行かなかった。出来るだけクラブから遠ざかろうとした。冬。馬の数と人の数が同程度。殆んど練習時間いっぱい乗った。而し非常に寒い。耳や足先が冷たく痛い。それでも練習に参加する！

三

退部者が続く。部員が次第に減少してゆく。一面では喜ばしい事である。乗る時間がそれだけふえる。而し何て寂しい事だ。台宿明けのコンパの時、あれ程騒いだ連中が一人又一人と後姿を見せて行く。

夢が破れてか。苦しさは耐えかねてか。自分もその一人になるうとは！

入部した当初、緑の原野を疾駆する夢を見ていた。すぐ現実との開きに気が付いた。そして今では、本当に夢になってしまった。

四

最近、未来論議が盛んな様である。而し日本人の描く、二十年後、百年後の未来像は確かにそうあるのが望ましいというようなものばかりである。全てバラ色の夢に包まれている。真のインテ

リという者は楽観的の見方をしないものだそうだが、この点日本には真のインテリは居ないという事になる。間違ひなく機械文明はより発達し、更に簡便な世の中となるであろう。而しだから合理的な世の中になるのかという決してそうとは限るまい。自動車が発明されて確かに世の中は便利になった事だろう。而し人類は代りに一番の混乱と不安を得たのではなからうか？
そして一層大規模の破壊とを？

五

何故クラブ活動が続いているのだろう。夢を将来に託してか。否々そうではあるまい。単なる情性に過ぎないのである。何時の日かそうではなくなるのを念じつつ。出席を取り終った後の「今日も練習に出た」という安堵感。馬に乗る為にはでなく、単に当番日誌の「午前の騎乗者」欄に名を記す為にのみ練習参加。義務を完了した時の解放感。束の間、明日又義務を果さねばならない事を思う。何故希望を持たないのか。何を望んでいるのか。勝か楽か。
「上手にならなければ」と思う。良い馬を作る為か？何故良い馬を作るのか。俺達の正しさを実証する為か？何故そうしなければいけない？
本当のところは何も解っていないのだ。

『考える馬術』

堤 秀 世

部報の原稿が足りないのでは何か書かなければならなくなりまして。最近疎かになったものの二年目の時までにはよく付けた騎乗日記をめぐってみても毎日同じような事ばかりで人に話しようを事や面白い話はまるでありません。三年目になって講教という事についても、しっかりした考えを持たなければならぬと思っております。馬上にいる時には「俺がこの馬を良くするのだ。」と云う気持で乗るべきで、そうすれば馬も人も良くなると思われています。今まで二年間に字で来た事をもとにして、上のような気持で馬に乗るように心掛けています。こんな事ばかり書いていてもスペースはなかなか埋まりませんので、日頃人から聞いたり自分で考えたりして興味深く思っている事について述べてみたいと思えます。馬術に関して三つ一組になった話がいくつかあるのと思ひ出すままに書いてみます。

高校まで全くスポーツをやっていたので大学で、どこか運動部にはいろうと思いましたが、ほかのたいのクラブではゼロから始める僕には、きつすぎると思いました。ある人が馬術部には次の三つがあって、これだけそろっているクラブはほかにないと言っていました。すなわち、馬術という技術と、馬という生き物と、部生活です。そして各人はこのうちのどれを追求しても良いとの事でした。入部当時三十名近くいた仲間も六人に減っ

てしまいました。退部した者には様々を理由があったでしょうが。技術の面では毎三のほんのわずかの進歩を信じるだけですが不幸か僕には好きな馬もいませんし、部生活からも離れ難いのです。

人間の場合、ノム、ウツ、カウと云いますが、馬にも三つあります。フム、ケル、カムです。無理して語路合わせをしました人間にとって危険なのは、蹴る、噛む、踏むの順でしょう。人を蹴る馬、人は蹴らないが他馬を蹴る馬、思い切り噛む馬、ちょこりと噛む馬、狙って人間の足を踏む馬。

知育・徳育・体育

馬術部を四年間やるとこの三つが育成されると聞いた事があります。特別な腕力、体力は必要ではありませんが、確かに朝すがすがしい空気の戸外でするスポーツは健康に良いし、馬を介しての規律ある団体生活では道徳と云うものも養われます。しかし知育と云う点になると、はなはだ疑問があります。二年間やって来て自分はどうかだろうと考える必要はまるでなく、僕の場合まわりを見渡せば良いのです。

馬術の三つの「る」として、乗る、見る、講べるといふのがあります。毎日馬に乗り、ほかの人が乗っているのを見、書物を読んだり、人に聞いたりする。そうして行けば上達すると云う事でしょう。しかし僕はもう一つの「る」を加えたいと思えます。四番目の「る」ではなく上の三つのどれとも深く結びつけなければならぬものです。それは「考える」と云う事です。大学で始めて

馬に乗り四年間で一応まとまったものにする時に、体で覚える馬術だけでは間に合わないように思います。これに「考える馬術」を加えねばならぬと思うのです。考えながら乗り、乗りながら考える。考えながら見、見ながら考える。考えながら調べ、調べながら考える。



思うまゝに

梶井 明

「ギリギリ」ハッと目をさますことから私の一日は始まった。苦しかった受験生活から一挙に一八〇度回転した生活が始まった。新緑あざやかなすがすがしい朝ペダルを力強く踏んで部屋へ。

「集合」に間に合って「ホッ」とした入部間もない頃。圧縮されていた精神が「パッ」と大空に広がって自分が自分でない様子がしたとき、必死で自分を見出し出そうと馬術にすがりついて早や一年。ポブラ並木に春風がそよぐ頃北海道の夏はもう側まで来ている。夏と言えば「草刈り」。まさに草刈りの夏である。ぎこちない手つきでカマをふるう。炎天下、ジリジリと地上の全てを焼きつくすような陽の下で草と人との格闘が始まっている。リヤカーがこわれるくらいにギューギュー押し込んで運んで来た草を馬達に与える。自分の刈った草をうまさうにグシャグシャ音をたてて食べている。惜しげもなく食べてゆく。みるみる腹の中へ吹い込まれて減ってゆく草をみていると「もう寸度、有難そうに食べるよ。」と言いたくなるのだが、その頃にはさき頃の苦しさはすっかりなくなつて、馬と自分と草だけが在るのだった。「天高く馬肥ゆる」秋は馬にとっては受難のシーズン。あちこちで試合が待っている。近年の不振を少しでも打破すべく頑張つて卒業された諸兄。北の冬、雪の北海道は象徴的にさえ感じられる。冬は長い、それだからこそ活動は一層活発にならねばならなかった。星

が「キラキラ」輝いた明方は神秘的にさえ感じられた。白く出て出る息は遠くまで伸びてゆく。長くつに入った雪を気にしながら、てくてくと通った身も心も凍りつく様な日。寒さでかじかんだ手を馬のたてがみに「ソッ」と入れた時馬の心が感じられる様を暖さが伝ってきた。北国が雪に閉ざされている時でも本州のライバルは十分に練習を積んでいる。我々が冬を克服できる時、展望は開けて来よう。白い土が前途をさえぎる時それをのり越えんがために私達の先輩諸兄が発見した武器こそ「イタリー方式」だと考える。日本馬術界の大勢が「収縮（馬場）馬術」にあるとき、我々は我が道を探求しようではないか。我々の前には過去の実績はないのである。我々が実績をつくり出してゆくのではないならぬ。しかし、道は誰もが知る通り非常に険しい。そしてそれに打ち勝つためには部員一人一人が信じることをなくしては駄目である。そのためには「イタリー式馬術」について自分で知る努力、行なう努力がなくてはならない。誰も分っている人はいないのだという事を自分なりに自覚する事も必要であろう。そして最も大切な事が謙虚に反省することであろう。イタリー式を絶対視してはならないが自分なりに納得して確信することは大切である。イタリー式を口にする私達に批判的な意見が周囲から来る時、間違っているのではない事はイタリー式に対する批判でなく自分達が口にするだけで怠慢している事に対するものとして受けとめておくべきだと言う事だ。部生活だけが私生活でないと言うには余りにも束縛の強い我が部であるが、そこに自馬を養う原動力があると言う事を時として忘れる事はあるまいか。部員各自が土台を支えている故に一人でも去る事は残留者に重みがかかるのは自明の理だ

が個人の意志も尊重されねばならない事をも考えると、去る者も残る者も自分だけの事を考えてはならないと言う事だ。社会が流動化している中で人それぞれに自己の歩む道を考えている事だろうが少なくとも馬に乗っている時練習に参加している時くらいは馬場の世界にとけ込みたいものだ。



想
い
//

或
人

心に去来する事をその儘繰る事が即、所謂「想い」なるものになるだろうと、高をくくる。

薄汚れたベットに横たわる時、寂しさが私の心を襲っていた。それは、現実逃避の後ろめたさであったのかもしれない。逃避、併し敢えて、それを逃避と迄もいわなければならなかった

のたろうか。併し、やはり何も行動しない事は、それに等しいと言わずばならなかったのであろうか。

兎に角、何も行動出来ない、いや行動に移れず心の中に葛藤を繰り返す不安と焦燥と自暴自棄的な安堵感、それがその時の私を襲った寂しさの全てであった様気がする。

未だ、デモの声が高らかに聞こえていた。

青い旗が風に揺らぐのが目に浮ぶ。

“粉砕！ 粉砕！”

この寂しさを絶つ為には——私には最後の手段しか思い当てる事が出来なかった。

春というのに膺寒い風が吹いていた。

(今頃、あの娘はどうしているだろうか)

私は咄嗟に赤いハマナスと海岸の砂を想い起していた。

“さよなら”私はその言葉の響きに快さと慰さめを聞いた。もう一度、私は呟いた。“さよなら”と。それは、敢えて私自身への訣別であったのたろうか。而して、訣別の二字が意識的に私に、やはり薄汚れた板壁に書いてある字を印象付けた。

“誰が為に鐘はなる” スクリーンのイグリット・ベークマンが美しかった。それにゲリー・クーバーも若かった。確か、あの映画は故郷の親爺と観に行った——話も殆んどした事の無かった親爺が私と……。若い情熱を想い出し、羨んだのたろうか。而して、果して私に何を期待したと言うのたろうか。

“誰が為に——”

“誰が為にと問ふ勿れ、それは汝が為に鳴るなれば——”
いつの日か、私の上に果して、何んの鐘が、如何なる音色をた

てて鳴り響くと言うのたろうか。 葬送の曲ではあるまいか。

私は部屋を出た。而して、私の足は学部の建物から遠のいて行った。

——授業を棄てる事。それが一体何の解答を与えて呉るのか。併し、敢えて私は表面的な墮落の中に、一時の救いを求めているではないか。

而して、更にそれが正しかろうとそうでなかりうと、一瞬の衝動であろうとなかりうと、己の心に素直に生きたかった。毎日、興味の湧かない授業に己を埋没させ、それだけがせめてもの己と己の生活を繋ぎ得る接点としか思得ない己の思惑から脱れて、どこか本当に己を見詰め得る場に辿り着きたかった。

併し、現実於て、私にその様な生き方が出来たであらうか。
“出来る” 出来る”、私の心は悲壮な叫びを上げる。

併し、“否、出来るはずが無い、お前にそれが出来るはずが無い”、何かが挑発する様に語っている。

(ここまで来て、

すてきれないのは何んなのたろうか、

すてきれないのは誰なんだろうか)と。

街に流れる人間の群れの中に漂い、己の足の音を聞きとれなくなった瞬間、再び、私は全てを疑った——己を含めた人間の存在を、而して、“信ずる”と言ひ事を、而して人間と人間との愛を。

誰かと誰かの愛の中に、私が初めて自覚めたと素直に信じ得るか。苦しげな心に私は、故郷の母の里の祭を想った。母は若かった。私を引く母の手が眩しく白かった。

時の回転が逆回りを始めた。

忘れられてしまった想いが

白い花の咲く様に

灰かに漂いながら

僕に訪れました。

真白な隧道をくぐって

僕は

今、僕は

母に抱かれました。

これで終るのだと、

僕は、もう一度

振り返りました。

何も無い果てに

白い花が、呼んでいます。

母の声が、遠くなっています。

それを支えるものの全てが幻想であったとしても、私は己を責めまい。而して、その生き方を誰が責める事も許すまい。もし、生まれた事と、生きている事が悲しいと言いのなら、悲しみを見守って、それを己の心だけで謳っていきこう。而して、己だけでも夢の中に生きて行こう。己だけでも。

若い母は死にました。

幼い僕も死にました。

母の優しかった子守歌も死にました。

而して、故郷も寂しく死んでいきました。

敢えて、再び己の出生を責めまい、己の育かれた情を責めまい。せめても遠く離れた地と人達を己の苦悩の中に引き込むのは

よそう。そこは、その人々は美しいものであったと思うのだ。

故郷には

やさしく春が

訪れているだろう。

別れを教え

どこかけだるさの

たちこめた、臭いの

中に

帰っていった夢が

悲しく響え

空を美しく色付けます。

学校も、而して馬術も、而して、愛も、棄てて、私はどこかへ行きたいと願う。併し、それを何かが阻む。それは、頭の中で美化しようとした故郷か、それは打算か、而して、それは、それは、
今の儘に日を送っていくとする私ならば、せめても、私は夢の中に己を見詰めては寂しすぎる。夢というよりも、幻想の中に腕がなくては。

併し、

贅沢すぎます。恵まれているのに、世を厭い悲しみ等と謳う事は感傷であります——と。

北海道大学馬術部名簿

歴代部長

氏名	住 所	電 話	勤 務 先
永井 一夫	初代部長 札幌市南2条西12丁目	21-2435	北大名誉教授
高松 正信	第二代部長 (東京OB)		
黒沢 亮助	第三代部長 札幌市北1条西22丁目	61-1057	江別市西野幌酪農学園大学教授北大名誉教授
太秦 康光	第四代部長 函館市湯川町2の8		函館高専校長
松本 久善	第五代部長 物 故		
半沢 道郎	現 部 長 札幌市北6条西12丁目	22-2268	北大農学部教授

特別後援会員

氏 名	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
野間口英喜	東京都杉並区水福町335	321-7617	日航ホテル社長	571-4911
染谷 五郎	札幌市豊平3条4丁目	81-8456	川崎日航ホテル社長 染谷商会社長	川崎4-5941 81-0623
滝沢 政雄	旭川市パルプ町1条4丁目国策パルプ第一クラブ内		日本造材社長	
原島 つる	札幌市北2条西27丁目	62-1451	原島洋装院々長	
庄内 貞夫	" 白石中央53の3	86-2504	歯科医	
武田 忠幸	" 南6条西20丁目	56-3286	北都ハイヤー北都バス社長 都会議員	71-7214 73-4321
山本 智	" 北10条東6丁目国鉄アパート213の401	72-5094	札幌公安室機動隊公安主任	71-1111 内 629
小野 忠	" 北18条西5丁目	72-1526	北大モーターズ社長	
鎌田 鉄穂	" 北21条西2丁目	71-1871		
今井 正			東京都千代田区神田鍛冶町3の5の1管工事支店	
布浦 敏一	" 新琴似町446の6	73-4692	札幌 札幌用品産	71-1034
富樫 英治	" 北3条西16丁目	62-3840		
阿部広道	" 麻生町801	71-9347	平岸炭鉱KK保安部長	71-4211
佐合 義弘			札幌市北7条西18丁目 (同好会幹事) <small>せいきょうマーケット</small>	62-3191
稲垣 新一	" 南5条西26丁目	56-1781	札幌乗馬クラブ	

高橋 留次郎	札幌市北14条西19丁目札幌競馬場内	3-5860	札幌競馬場	
加藤 和男	東京都太田区南馬込6丁目29-1			
田中 昭志	札幌市北8条西9丁目	23-5860	札幌	
岡部 尹大	" 琴似町宮の森778橋場方		北大理学部大学院	71-2111 内 2775

後援会員(卒業生)

氏名	卒業年度	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
中野友二郎	昭4 農農	(東京OB会)			
平山 常介	4 工機	(")			
中谷 勝紀	5 工機	(")			
間 克市	6 農畜	(")			
岩垣 駛夫	6 農農	(")			
河崎 秋三	6 農畜	(")			
藤居金太郎	7 農化	ブラジル・サンパウロ在住		漁業	
永松 四郎	7 農畜	(東京OB会)			
半沢 道郎	8 理化	札幌市北6条西12丁目	22-2268	北大農学部教授(現部長)	71-2111 内 2512
武田 朝男	8 農畜	(東京OB会)			
東園 基文	9 農農	(")			
由(主)畑武夫	10 医	札幌市南5条西2丁目		田畑産婦人科病院長	
久葉 昇	10 農畜			神戸大学農学部教授	
植村 勘一	10 農畜	(東京OB会)			
(8主) 本田 桓康	10 工機	(")			
加藤 英夫	11 医	札幌市平岸2条3丁目166	82-0266	朝日生命札幌支社	24-9231
高杉 直幹	11 理化	札幌市北7条西13丁目	24-3720	北星大教授	
(9主) 脇田代子郎	11 農化	(東京OB会)			
(10主) 大迫 明德	11 理化	(")			
吉見 一郎	11 農経	(")			
渋谷 周平	11 農畜	(")			

氏名	卒業年度	住 所	電 話	勤 務 先	電 話
森山 武雄	12 医	青森県南津軽郡浪岡町		国立岩木療養所所長	
滋賀 秀明	12 医	(東京OB会)			
(主) 前野 正久	12 農畜	(")			
小村 達夫	13 農生			岡山大学教授(理学部長)	
高井 久芳	13 農畜	札幌市北1条西17丁目		道庁農務部改良課	
前川 静彌	13 理化	室蘭市新富町1の6番14号社宅番外14号		日本製鋼室蘭製作所研究所副所長	室蘭2-9211 内 305
山下 正亮	13 農畜	札幌市白石町本通818の135		酪農学園大教授	
(主) 石井 喜長	13 農化		(0473) 62-9785	アルコール海運倉庫KK	
小笠原義頭	13 工電	(東京OB会)			
桶本 勝登	13 農経	(")			
松平 悌	13 農農	(")			
黒沢 良雄	13 農経	(")			
小田 昇	14 農畜	(")			
池内 武夫	14 農畜	(")			
(主) 中屋 敦司	15 工鋏	(")			
西村 雅吉	15 理化			北大水産学部教授	2-0311
(主) 木谷 清喜	15 農実	金沢市古寺町12		瓦土建(自営)	
石井 和彦	16 農畜	鳥取市湯所町1の307		鳥取大農学部助教授	
(主) 河原 清作	16 工土	小樽市忍路郡塩谷村		自営	
熊沢 洸	農実	十勝国河東郡士幌町士幌		士幌農協	
関 義人	医	秋田県湯沢市字西松沢392		関内科小児科医院	3200 3377
高木 史郎	工鋏	茨城県東茨城町駒渡1083駒		県立水戸工業高校	
中曾根 賢	農実	室蘭市胆振支庁		胆振支庁産業課長	
林 健爾	農実			北海道生産農業協同組合連合会生産部次長	
半沢 宏	工機	札幌市北6条西12丁目	22-2286	北大工学部教授	
伊関 悦郎	工鋏	函館市宮前町213		函館水産高校	
門池 正夫	農実	名古屋市中種区丸山町3-24		旭化学工業KK社長	
秋吉 照忠	農林	札幌市真駒内曙町1-1-1	58-0415	北海道合板工業組合	24-5845

福光 幸彦	17	医	札幌市南7条西4丁目	23-1843	福光延 寺堂院小児科	(代)
岡田 光夫		工木	" 南7条西22丁目	23-3750	札幌市役所土木部長	25-3211
(16主) 右川 恒		農畜	" 北18条西8丁目		北大獣医学部教授	(代)
白取 善三	17	農実	弘前市大字薬師堂熊本19の2		大成軽ブロックKK社長	71-2111
小林 五郎		工電	神奈川県大磯町東町2の64		沖電気工業特殊機器開発部次長	452-4111
山根 乙彦		農畜	鳥取市湯所町2の422	23-2573	鳥取大農学部教授	
前田 正義	18	農実			雪印乳業工場長	
大戸 進		農林	名古屋市千種区大島町2の46		三井木材KK	
小池 栄一		工土	札幌市南14条西9丁目		北海道電力	
平井 宏和		工電	(東京OB会)			
安部 孝	19	工電	鈴鹿市白子町 電々公社鈴鹿電気通信学園			
坂井 弘		農化	福山市東深津町290		農林省中国農業試験場	
田口 暢茂		医	札幌市北22条東18丁目		道立千歳病院	
稲葉 恵一		農化	大阪府高槻市天神町2の16の15	5-2759	日本油脂KK	
福岡 邦泰		農農	札幌市琴似町宮の森19		道庁総合開発企画部	
大手 英夫	19	理化	(東京OB会)			
富塚 治郎	20	農畜	東京都青梅市新町都立種畜場内		東京都立種畜場	
岸田幸三郎		農化	不明			
羽鳥 栄治		工土	兵庫県西宮市松山町国鉄甲子園アパート1/306		国鉄大阪工事局	
小林 正英		農畜	(東京OB会)			
木全 幹雄	21	農化	東京都杉並区清水1の6の8		自衛隊陸上幕僚監部	
山崎 治夫	21	工治	布施市西堤623狩勝工業			
宇津見 千之助		農畜	栃木県小山市横町2206			
上野 新次	22	農農	新潟県加茂市西加茂8丁目		県立加茂高校	
和田 晴		農畜	札幌市琴似町新川841		道庁酪農草地課	
宮崎 利昭		工機	在ベルー		第一物産KK	
武田 祐幸		現地	(東京OB会)			
田之上家久	26	農水	東京都三鷹市牟礼公団住宅 <small>三鷹団地</small> 10の104		日本放射線同位元素協会	

後藤 義英	農獸	札幌市円山西町 2 の 9 7		札幌東保健所	
齊藤 善一	農畜	弘前市若党町 7 9		弘前大学農学部助教授	
鈴木 敏夫	農畜	空知郡江部乙町江別乙高校公宅		江部乙高校	
渡植貞一郎	農畜	前橋市岩神町郡馬大学医学部内分泌研究所		郡馬大学	
齋野 保		北海道標津郡中標津町		北海道農業試験場根室支場	
永井 重翁	農獸			雪印乳業 K K 水沢工場	
梶谷 晴男	農水産	大阪市生野区新今里町 5 の 1 7		大阪化学合板 K K	481 - 4433
吉本 正	農畜			宮城県農業試験場	
古谷 昌司 (26 27 主)	農畜	(東京 O B 会)			
下飯坂 隆	農畜	(")			
佐藤 巖	農畜	(")			
福島 務	2 9 医	札幌市琴似町 2 2 5 (在アメリカ)		北大産婦人科教室	
阿部昇一郎	3 0 工鍼	新居浜市角根山根西		住友金屬鉦山	
鎌田 正人 (28 29 主)	農畜獸	浦河郡浦河町西穂別	浦河 2-3 284	K K 鎌田牧場	
田中 浩	工冶	神戸市葺合区 神戸製鋼 K K		神戸製鋼 K K	
正富 宏之	理動	釧路市春採町 8 0		専修大学美唄農工短大	
齊藤 成俊	3 1 農経			北海道信用農協連	
佐伯 和夫 (旧石塚)	獸	白老郡白老町萩野第三石山		昭和工業 K K	
大久保利彦	獸	天塩郡豊富町公営住宅 2 1 の 3		雪印乳業 K K 幌延工場	
加藤昌太郎	理物	(東京 O B 会)			
加藤 元	獸	(")			
千田 哲生	獸	(")			
岡本 洸	農生	(")			
荒川 清	3 2 経	札幌市界川町 4 9 5	2 2-4 6 5 2	札幌トヨタ自動車 K K	21-8191
榎本 幸人	理植	淡路島淡路町岩屋神戸大学理学部岩屋臨海実験所			
岡部 満雄	農畜	札幌市豊平 5 の 1 0 道営住宅 8 の 8 2		道庁酪農草地課	
齊藤 実	経	富山市高原本町 9 6		不二越鋼材工業 K K	
宮沢 寛 (81主)	農林産	(東京 O B 会)			

伊藤 亮	3 3	獣	岡山県阿哲郡神郷町下神代 1 0 0 2 新見営林署神代宿舍内
松田 璣		医薬	
乾 直道		理動	(東京OB会)
栗原 康		工敏	(")
渡辺 俊弘		工応	(")
柴田 久男	3 4	工電	札幌市手稲町字西野 9 3 7
今出 哲		農化	西宮市甲東園 2 - 8 5 武田薬品研究所
生田 勝一 (2)		経	札幌市苗穂町 4 3
菅原 照雄		文哲	" 北 4 条西 6 丁目北 4 条アパート 9 0 3
土井 敦		農畜	" 手稲町字前田
山本 智		水	樺戸郡浦臼町字浦臼内 1 4 区
栗津健太郎		水	札幌市南 1 条西 1 7 丁目
村山 哲		経	倉敷市浜の茶屋 1 - 5 - 2 2
樋口 正明		法	(東京OB会)
千葉 幹夫		獣	(")
中村 美幸		経	(")
佐伯 雄二	3 5	農畜	徳島県名西郡石井町城内教員住宅 1 6 号
本橋 幹久		農畜	在サンパウロ
奥野 静子 (片山)		文英	札幌市北 2 条西 2 3 丁目片山方
小長 各番高	3 5	水	
田中 紀介		農林産	(東京OB会)
長谷川 邦夫		法	(")
門奈 駿		医	(")
森本 悳次 (3)		農林産	(")
稲垣 修一	3 6	理化	
佐藤 典子 (伯林)		医	札幌市北 2 6 条東 5 丁目三浦良一方
高林 健子 (伯高)		医	(東京OB会)
河原 紀夫		理地	(")

北海道電力 K K
 武田薬品 K K
 読売新聞 K K
 毎日新聞 K K
 ホクレン
 浦臼高校
 銀座屋 パン K K
 本田技研工業 K K

24-3211

61-8414

NHK・TV

大同製鋼

湯浅 正之	農畜	(東京OB会)			
吉田 亨	工衛	(")			
千葉 祐記 (³⁶ 主)	37 農畜	北九州市小倉区金鷄町2の56の4 天風荘			雪印乳業KK
広岡 暢夫	農畜	(東京OB会)			
森 広幸	工精	名古屋市北区辻町1 大隈鉄工所第一寮			大隈鉄工所
四柳 智久	医薬	(東京OB会)			
木塚 信次	農畜	(")			
伊藤 公一	医	札幌市南25条西12丁目			北大医学部
木場 善明 (³⁵ 主)	文史	(東京OB会)			
鶴見 好博	理化	(")			
小島 杏介	水	(")			
小山 毅	教	(")			
市川 瑞彦 (³⁷ 主)	38 理物	札幌市北32条東6丁目 井上武志方	72-3921		北大理学部大学院
小出 秀達	医	帯広市			十勝療養所
宮崎 健	文露	横浜市港北区日吉町128 サンケイ日吉住宅			産経新聞
玉沢 一晴	医薬	(東京OB会)			
岡田 征至	法	(")			
志水 一允	農林産	(")			
清水 洋	農畜	(")			
原 重一	農農	(")			
堀川 芳男	農畜	(")			
実吉 峯郎	医薬	(")			
新原 輝久	理地	(")			
田中セツ子	農工	(")			
恩田 正臣	39 農畜	愛知県岡崎市細川町農林省岡崎種畜牧場内			農林省兵庫種畜放場
入江嘉美子	薬	東京都渋谷区西原2-13-14 鈴木方			
小林 則子 (旧寺江)	農畜	札幌市北11条東7丁目 すみれ荘	72-0525		天使女子大

東京 231-7111
(内) 720

高木 佑太	農畜	沼津市牛臥 3004-6		台糖フェイザー沼津出張所	
小島 武	医薬	神戸市兵庫区山田町上谷上字上ノ開地 42の30		鐘ヶ淵化学KK	
荒木 伸也	水産	帰省先 熊本県下益城郡南町限庄	城南局 49		
三浦清一郎	教	在アメリカ			
田村 雅英	工合	(東京OB会)			
野田 行文	40 獣	(")			
大木 誠示	理数	(")			
吉田 賢一 (白御坊田)	工治	(")			
守屋 正	工精	(")			
八木 正己 (38主)	理生	札幌市琴似八軒 5条東1丁目		札幌光星学園高校	71-7161
萩原 雅典	経	札幌市石山五区 前川正一方		定山溪鉄道	
滝沢南海雄 (39主)	理植	" 北24条西3丁目 丸一荘		北大大学院	
松永 武彦	工電子	千葉県茂原市早野 3550 誠和寮		日立製作所KK	
水野 佑彦	40 理化	札幌市北24条西4丁目 朝日荘		北大大学院(理学部化学科生物化学)	
横田 肇	農化	瀬棚郡今金町栄町 234 まるびしアパート		明治乳業今金工場	今金 9・339
菅野 弘	農畜	室蘭市幸町 119 胆振支庁農務課畜産係		胆振支庁	(代) 2-9181
牧 龍子	薬	札幌市南1条西19丁目		札幌医大中央検査室	
滝沢 迪子	42 文独	" 北11条西5丁目		北大文学部	
松尾 英彦	41 水漁	在カナリー諸島(スペイン領)		日魯漁業	
八木多賀子 (旧八木)	文哲	札幌市琴似町八軒 5条東1丁目		北大法学部	
大堀 慧子	法	" 北10条東8丁目		日本鋼管福山製鉄所	
黒沢 道雄	工機	福山			
高野 文彰	農農	(東京OB会)			
小栗 紀彦 (40主)	42 農畜	札幌市北13条西18丁目 中村吉雄方		北大大学院	内 2544
近藤喜干郎	42 文史	名古屋市中区古渡町 5丁目 16		自営	
高橋 昭夫	獣	野付郡別海村		別海村農業共済組合	
八木沢守正	理生	(東京OB会)			
山村 勝	農林	札幌市北7条西12丁目 米沢寮	25-3586	北大大学院	内 2529

加藤 正昭 (41主) 倬	工衛 医	札幌市北24条西3丁目			
阿部 勝彦	4.3 農林				大昭和製紙
五十嵐 章 (42主) 洋	法	札幌市北1条西27丁目くずおか方	62-7837		モービル石油
池田 統	工機	福島県双葉郡浪江町浪江私書函12			ゼネラルエレクトリックテクニカルサービスカンパニー原子力事業部
入江 圭	工衛	東京都世田谷区成城町83			都庁
高倉 宏輔	獣医	野付郡別海村中西別別海農協中西別家畜診療所			別海村農業共済組合
降旗 正忠	工電				三菱電機
仙波 和子	教		71-1734		
山本 絃明	経	大阪府枚方市朝日丘町10番49号 田宮三洋寮1号館508号室	枚方 41-9612		三洋電機
浜岡 秀洋	工機	大阪府寝尾川市東大和6の5 浜明男方	21-2509		三洋電機
斉藤 勝雄	4.4 農機	札幌市澄川12	83-6281		ホクレン
田中 力	獣医	岩手県花巻市石神田77の3 雪印乳業花巻寮			雪印乳業花巻工場
春田 恭彦 (43主) 一	畜産	静岡県静岡市御園北大実験牧場内			
村井 弘	畜産				共同飼料
山本 進	水産				
寺崎 弘恭		大阪府豊中市力根山4の98 近藤方			

東京OB会

氏名	卒業年度	住所	電話	勤務先	電話
高松 正信	第二代部長	世田谷区松原6丁目36-8	(322) 6752	北大名誉教授・玉川大教授	
中野友二郎	昭4 農農	南多摩郡多摩町桜ヶ丘3丁目33-4		科学教育研修センター	
平山 常介	" 工機			日本海事KK	

野間口英喜		杉並区永福町 3 3 5	(321) 7 6 1 7	日航ホテル社長	(571) 4 9 1 1
中谷 勝紀	5	工機 杉並区桃井 1 - 1 5 - 2 3			
間 克市	6	農畜 千葉県葛飾郡鎌ヶ谷町登登 5 2 2		地方競馬全国協会参与	
岩垣 駿夫	"	" 農 新宿区百人町 4-4 2 0 新宿住宅 RA-1 5	(368) 3 5 3 0	東京農工大教授	(0423) 61-3311
河崎 秋三	"	" 畜 千葉県印幡郡印西町			(04262) 6797
永松 四郎	7	" 太田区千束町 1 - 5 8 - 9	(717) 3 4 8 4	永松商事	(717) 3 4 8 4
武田 朝男	8	" 目黒区中目黒 5 - 1 8 - 2	(714) 7 0 1 5	日本製酪協同組合	(433) 5 7 5 4
東園 基文	9	" 農 目黒区五本木 3 - 3 0 - 1	(711) 8 8 7 7	宮内庁待従職参事	(400) 0 4 5 1
植村 勘一	1 0	" 畜 目黒区麁番町 4 5	(712) 0 3 9 0		
本田 桓康	"	工機 千代田区紀尾井町 4 - 1 1	(262) 5 5 2 4	プレス工業 K K 常務取締役	(044) 26-2581
大迫 明德	1 1	理化 世田谷区宮坂 1 丁目 1 4 - 9	(428) 4 8 1 7	K K バイエルン・ジャパン	(432) 4 2 5 1
吉見 一郎	1 1	農経 北多摩郡加江町小足立 6 2 0	(489) 0 4 9 1	雪印乳業 K K 取締役	(353) 3 1 1 1
渋谷 周平	"	" 畜 渋谷区代々木 1 - 2 2		(社) 日本アイスクリーム協会	
脇田代子郎	"	" 化 神奈川県藤沢市辻堂西海岸			(212) 6 4 1 1
滋賀 秀明	1 2	医医 港区芝白金三光町 3 6 4	(441) 7 8 4 4	大同製鋼 K K 東京診療所長	(901) 4 1 6 9
前野 正久	"	農畜		森永乳業 中央研究所長	
小笠原義顕	1 3	工電 川崎市宿河原 2 2 2 3	(044) 82-3609	日本電気 K K 放送機事業部長代理	
楠本 勝登	"	農経 杉並区上荻窪 1 - 1 9 7	(391) 5 3 8 3	人事院関東事務局長	(581) 1 7 3 1
松平 悌	"	" 農 渋谷区恵比寿 4 - 1 9 - 2 4	(473) 3 9 2 0	日本農産加工 K K 白岡工場長	
黒沢 良雄	"	" 経 茅ヶ崎市小和田 4 3 3 2	(046) 70-8676	日本長期信用銀行	
池内 武夫	1 4	" 畜 世田谷区若林 4 - 2 2 - 5	(414) 0 3 6 1	日本中央競馬会理事	(591) 5251~8
小田 昇	"	" 伊東市宇佐美 2 7 8 7 ホテルカスガ		自営	
中尾 敦司	1 5	工敏 杉並区本天沼 3 - 4 - 1 4		住友ビル大日本鉱業 K K	(211) 2 6 7 1
小林 五郎	1 7	工電 神奈川県大磯町東町 2 - 6 4		沖電気工業 K K 特殊機器開発部次長	(452) 4 1 1 1
前田 正義	1 8	農実 神奈川県藤沢市鶴沼海岸 7 - 2 1 - 2 5		雪印乳業	
平井 宏和	"	" 電 町田市玉川学園 8 - 1 8 - 9	(0427) 32-8689	日本電気 K K 衛星通信開発室	(044) 41-1111
大手 英夫	1 9	理化 新宿区西大久保 2 - 2 1 9	(365) 4 5 2 3	東邦シートフレーム K K	(272) 2 8 1 1

小林 正英	20	農畜	杉並区阿佐ヶ谷北3-26-10	(339)0869	東京都農業試験場	(0425)24-3491
富塚 治郎	"	"	青梅市新町都立種畜場内		東京都立種畜場	
木全 幹雄	21	"化	杉並区清水1-6-8		自衛隊陸上幕僚監部第四部研究班	
武田 裕幸	22	理地			国際航業KK地質部長	(265)3661
古谷 昌司	28	農畜	浦和市別所3-38-10	(0488)22-5073	古谷製菓KK技術部	(0488)31-5878
下飯坂 隆	"	"	中野区白鷺2-17-3	(和田方)	日本軽種馬登録協会	(429)5684
佐藤 巖	"	"	川崎市岡上510-28	(385)3269	雪印乳業KK技術部	
加藤昌太郎	31	理物	国分寺市西町4丁目けやき台32-103	(0425)22-0596	防衛庁陸上幕僚監部	(268)8111 内558
加藤 元	"	獣	杉並区善福寺3-15-13	(399)4610	ドクター動物愛護病院	(334)3536
千田 哲生	"	"			中央競馬会競走馬保健研究所	
岡本 洸	"	農生	草加市草加松原団地D58-204	(0489)3-9407	十条製紙KK東京事業所	
宮沢 寛	32	農林産	逗子市山ノ根3-12-10	(0468)71-2487	日本揮発油建設部	(045)731-1261 (918)0111 内472
乾 直道	33	理動	藤沢市辻堂新町2丁目4の22	(0466)36-7162	癌研究所病理部	
栗原 康	"	工鉦	板橋区下赤塚76下赤塚公務員住宅12		中小企業庁技術部	(0484);) 41-2880~3
渡辺 俊弘	"	工応化	上尾市大字上字堤下359上尾シラコバト 公団アパート17-401		北炭化成工業KK	(212)5111 内4081
樋口 正明	34	法法	世田谷区上馬5-23-8		東京都人事委員会任用部試験課	
千葉 幹夫	"	獣	世田谷区弦巻町5-29		中央競馬会馬事公苑	
中村 美幸	"	経経	中野区鷺宮6-19-19	(999)2443		(0480)2-0181
田中 紀介	35	農林産	清水市横砂町16-7 美幸荘		富士合板KK研究所	清水 34-1271
森本 悌次	"	"	葛飾区高砂7-1-14 好美荘		松下木材KK営業部	
長谷川邦夫	"	法法	立川市砂川町692江の島東団地250		岩崎通信機KK経理課	
門奈 駿	"	医医	茅ヶ崎市旭ガ丘13-4	(0467)82-5746	国際興業航空サービス部	
河原 紀夫	36	理地	府中市白金台6-2-28		アジア航測KK	
湯浅 正之	"	農畜	武蔵野市西窪411 伊藤忠三鷹寮	(0425)5095	伊藤忠商事KK畜産課	(661)2171
吉田 亨	"	工衛	八王子市子安566 子安アパート		高砂熱学工業KK技術部	(251)7121
高林 嬉子	38	医医	横浜市磯子区岡村町238	(751)4431		(583)6871 (561)1111 内607
大場 善明	37	文史	足立区栗原町1555栗原団地14-104		読売新聞広告部	

鶴見 好博	37	理化	太田区大森北3-11-7	(764)3970	三菱江戸川化学KK研究所	(251)0191
小島 杏介	"	水	横浜市神奈川区菅田町2872		淀橋保健所	(868)0186
四柳 智久	"	医薬	目黒区大岡山2-5-23 若竹荘		東大薬学部製剤学教室	(812)2111
木塚 信次	"	農畜	杉並区久我山2-613-7	(392)3825	湘南食品KK	内7271 (045)871-1921
広岡 暢夫	"	"	茨城県西茨城郡岩間町 全販連内			
小山 毅	"	教	世田谷区赤堤3-6-12 戸沢方	(328)6372	専修大学文学部	
玉沢 一階	38	医薬	浦和市大谷場1-9-6 倉橋方	(0488)82-3436	山之内製薬KK中央研究所	(960)2171
岡田 征至	"	法法	世田谷区給田町793 昇荘		北海道拓殖銀行築地支店	(543)1011
志水 一允	"	農林産	深川三好町2-16	(641)8048	農林省林業試験場	(711)5171
清水 洋	"	農畜	横浜市南区日野町大多良住宅10-104		畜産局食肉鶏卵課	内306 (501)3776
原 重一	"	"	横浜市港北区日吉本町2096 日吉第三コーポ42	(0446)1-3226	交通公社調査部	(211)3211 内3575
堀川 芳男	"	"	中野区上高田2-16	(385)8685	アメリカナ・コーポレーション日本支社	
実吉 峯郎	"	医薬	渋谷区長谷戸46	(461)5550	国立ガンセンター研究所	(542)2511
新原 輝久	"	理地	北多摩郡狗江町泉1284		アジア航測KK	
田中セツ子	"	農工	世田谷区玉川奥沢3-121	(702)1365	高千穂交易KK	(294)1951
田村 雅英	39	工合化	八王子市大和田町1400 小西六大和田寮	(0426)42-5014	小西六写真工業KK日野工場	(0425)82-1521
入江喜美子	"	医薬	渋谷区西原2-13-14 鈴木方			
野田 行文	40	獣	東村山市萩山町3-94 中外製薬久米川第2寮	(0423)92-4394	中外製薬KK総合研究所	(987)7111
大木 誠示	"	理数	与野市大戸489 芝崎アパート		雪印乳業KK	(357)3111
吉田 賢一	"	工治	横浜市南区大久保町559-2 第二北斗寮		日本揮発油KK	
守屋 正	"	"	太田区田園調布2-40 第一桜ヶ丘寮		三菱重工KK東京製作所	
八木沢守正	42	理生	目黒区八雲2-19-2	(717)5930	東大	(812)2111 内6659

現 役 部 員

氏 名	学年学部学科	現 住 所	帰 省 先
今井 雅子	4 農化	札幌市北3条西15丁目 (63)1621	同 左
小野 政則	4 農林学	" 北17条東1丁目 札幌ポニーハウス	岡山県倉敷市平和町486
加藤 公敏	3 理化	" 北18条西5丁目 五月荘	東京都太田区岡本町1297
篠崎 正樹	2 医	" 北17条東1丁目 札幌ポニーハウス	千葉県山武郡士気町士気1632
橋口 庸	2 医	" 北28条西7丁目 土田方	福岡市三宅堂
本田 徹	2 医	" 北19条西2丁目 佐藤方 (71)1891	東京都豊島区高田1-1-19
太田 清澄	3 農農	" 北20条西7丁目 借楽園	長野県松本市宮淵2丁目6-15
堤 秀世	2 教理	" 北27条西11丁目	同 左
中寺 清久	3 工機	" 北11条西2丁目 前田方	福岡県田川市本町8-4
長谷川 仁	3 工機	" 北19条西4丁目 村山方	名古屋市千種区若水町3-23
松井 亮	2 医進	" 北19条西2丁目 仲尾方	石川県金沢市小立野4-4-71
松永由可里	3 理生	" 北15条東4丁目 佐藤方 (73)0848	札幌市手稲町山口市営住宅1の32号
榊井 明	2 教理		大阪府東大阪
梶村 哲世	2 教理	" 北18条西6丁目 静山荘	大阪府藤井寺市小山藤美町4-9
大見 太一	2 教文	" " "	福岡県北九州市八幡区久喜町1丁目
寺島 亨	1 教文	" 北19条西5丁目 前田方	宮城県仙台市
今井 敏郎	1 教理	" 北3条西15丁目 (63)1621	同 左
中村 慎一	2 教水	" 北22条西5丁目 潜山荘	神奈川県川崎市下作延334
山川 博章	2 教理	" 北7条西8丁目 巖鷲寮	

◁ 勝手ながら、住所変更等の際には部宛に御連絡下さる様、御願ひ致します。
はなはだ不備ではございますが、お気付きの点がございましたら、御口添え
いただければ幸いです。

一人でしんみり
二人で仲良く
みんなでゆかいに

昭和の春 直営

三 鈴

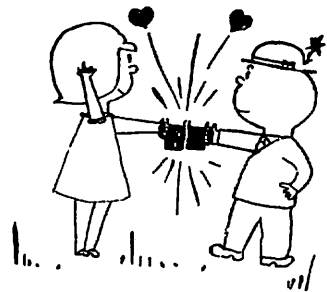
南 5 西 4

営業時間 AM 8:50~PM11:00

◎モーニング サービス

AM 8:50~AM11:00

コーヒー	50円
トースト付コーヒー	80円
◎ カレーライス	120円
おにぎり (1個)	40円
みそ汁	30円
ホットドッグ	80円



喫茶

ゆき

北大正門前 73-0840

馬具・鞆
製造販売修理

中野馬具店

札幌市北13条東1丁目 石狩通

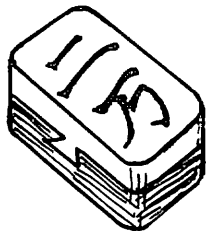
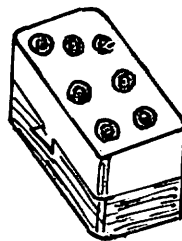
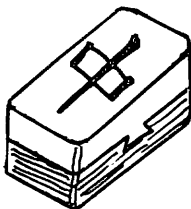
TEL (3)-7876

太田蹄鉄店

札幌市菊水北十二

TEL (八二) 一〇八五一

みんなで行こう



北クラブ

北8条西4丁目

TEL 71-0670

パ ン の 店

銀座屋 GIN
ZAYA

BAKERY

S a p p o r o

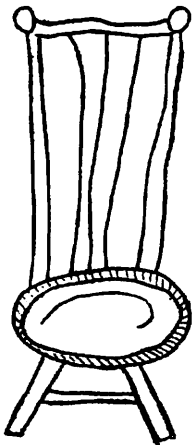
本社 札幌市南1条西17丁目

TEL 62-0701

工場 琴似発寒宮の内町834

TEL 61-1092

Music & Coffee



銀座

トリコロール

麻雀荘もご利用下さい。

さっぽろ 北8西4 (北大正門前)

TEL (71)9219

乗馬用ズボン専門店
松田屋

田 辺 洋 服 店

札幌市豊平四条六丁目平岸通り
TEL (81)7341

おふくろのあじ

ま こ と や

札幌市北14条西4丁目
TEL (71)7494

亭 北 軒

モ ツ ラ

札幌市北16条西4丁目

TEL (71)6450

落ち着いて飲めるところ

NIKKA BAR

M A B Ō

北13西4

札専・札信販加盟店

Ⓜ ナカタ

本店 北14・東1
TEL ⑦1331

支店 グランドホテル
TEL ②3311 内線 263

医
薬
品
卸
業

ホ
シ
伊
藤
(株)

本社 札幌市南八条西十四丁目
TEL 大代表 ⑤⑥一六一一一
支店 帯広・釧路・北見・函館
旭川・滝川

暮らしの中の小休止

コーヒーのある生活

画廊
喫茶
タ マ キ

北18西4 73-4890



北大正門前
T 71-3891

乗馬用長靴

各種靴製造と販売

札幌加盟店

三浦靴店

札幌市南一条西八丁目八番地 T代②0901

お酒飲みたし おチョコなし

ビール飲みたし グラスなし

カクテルしたし 器具はなし

アメリカ資本のコーラは絶対に置かない店

沢田商店

北大正門前 TEL 71-0828

北大と共に五十年

パイ 饅頭

ク ラ ー ク

菓子司 中 屋

71-3909

各種飼料取扱

渡 辺 商 店

TEL 71-7034

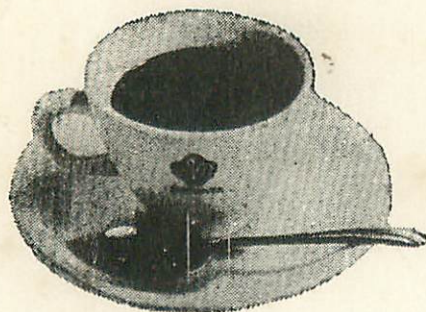
◇貸切バス・ハイヤー ◇車輛整備・中古車販売
◇石油製品販売・損害保検取扱

北都交通株式会社
北都整備株式会社
株式会社北都商会

取締役社長 武田忠幸

本 社	札幌市北30東1	電話71-7214
ハイヤー	〃	〃 71-4181 (代)
バ ス	札幌市篠路町太平	〃 77-2821 (代)
整 備	札幌市北30東1	〃 72-7211 (代)
商 会	〃	〃 72-8864 (石油・プロパン)
		〃 71-4181 (損害保険)

世界のコーヒを味わえる店



和洋菓子と珈琲の店
ご会合、ご宴会、クラス会に
サービスの行き届いた当店をご利用下さい。

洋菓子とコーヒー 階上レストラン
パーラー **石田屋**
北3西3道庁前丁 ☎3005☎1872